

水道事業

2024/2/5

京田辺市上下水道事業経営審議会（第2回）

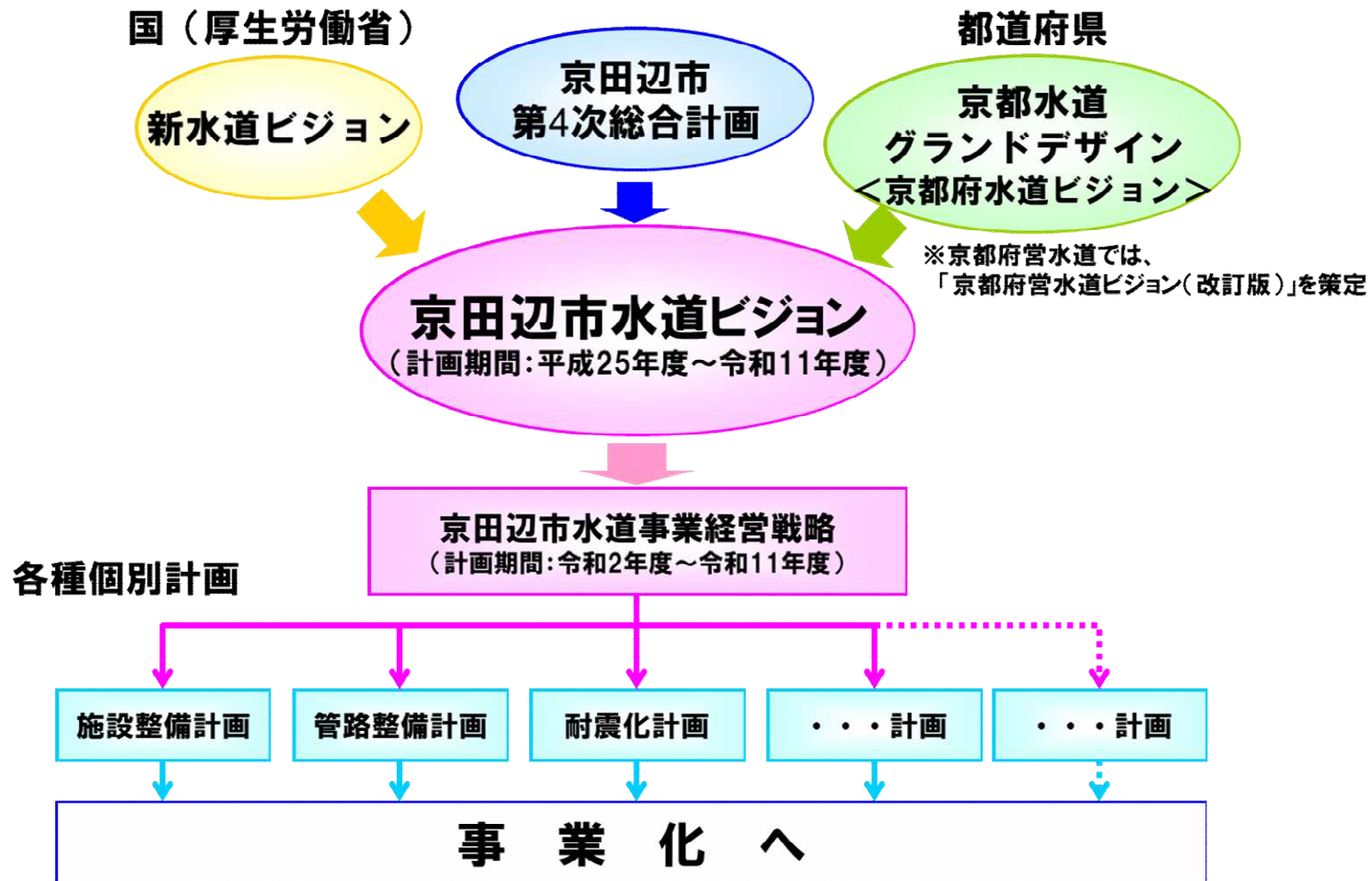
（今回確認するポイントについて）



1. 現行計画の概要
2. 今回確認するポイント
3. 人口・給水量の近年の動向
4. 投資額の近年の動向と
施策の取組状況
5. 近年の経営状況
6. まとめと今後の進め方

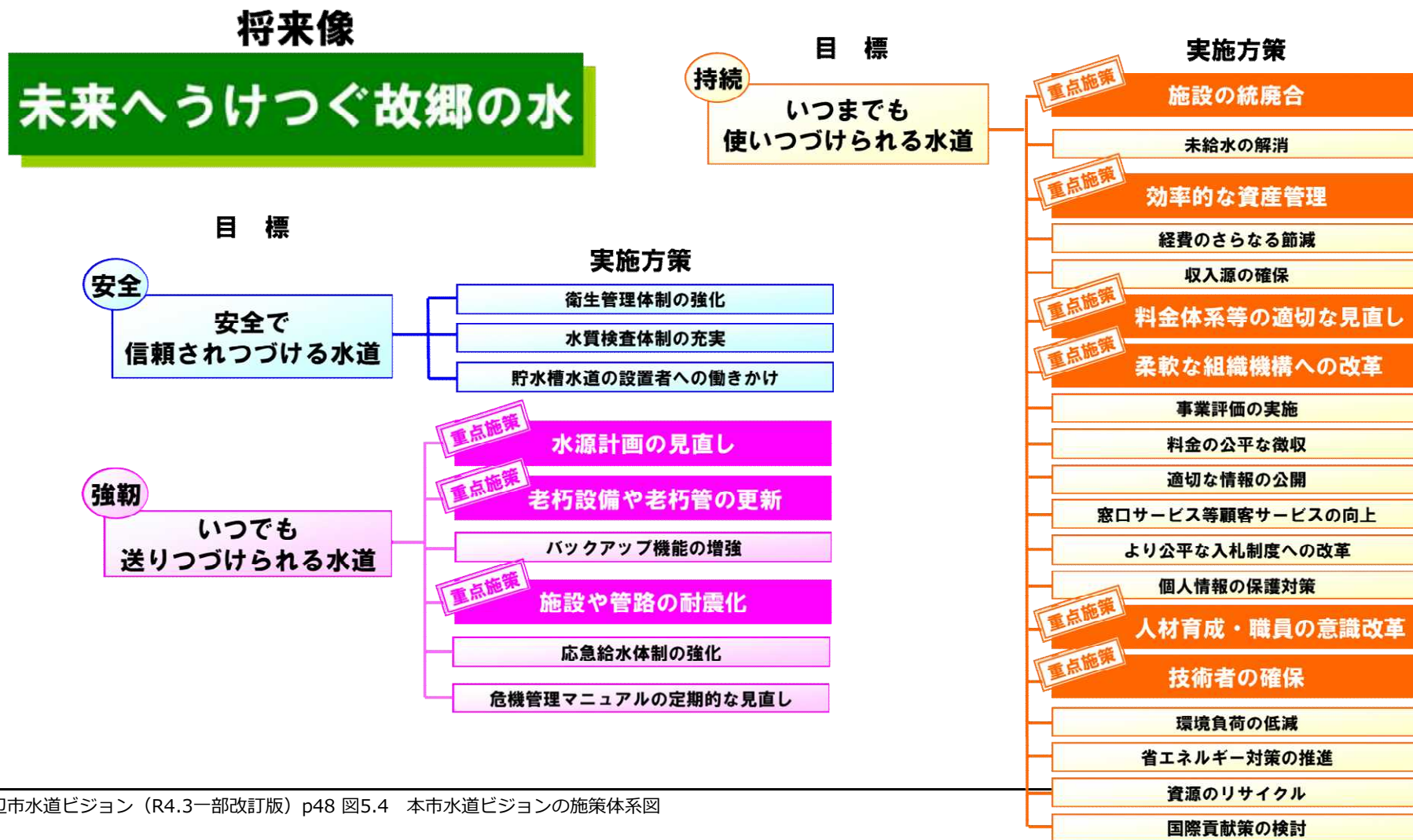
1. 現行計画の概要

- 京田辺市水道ビジョンは水道事業のマスタートープランである。
- 京田辺市水道事業経営戦略は京田辺市水道ビジョンに掲げている実施方策を着実に推進するための実施計画である。



1. 現行計画の概要

- 京田辺市水道ビジョンでは、『未来へうけつぐ故郷の水』を将来像（あるべき姿）として、将来像の実現にむけて「安全」、「強靱」、「持続」の視点から目標や目標を達成するための実施方策を定めている。



1. 現行計画の概要

- 京田辺市水道事業経営戦略では、京田辺市水道ビジョンで定めた将来像を基本理念として投資計画の基本方針を定め、更新需要、大住浄水場水源化計画、施設耐震化計画及び拡張事業の4つの事業を実施する計画としている。

京田辺市水道ビジョン将来像 <基本理念>

ふるさと
未来へうけつぐ故郷の水

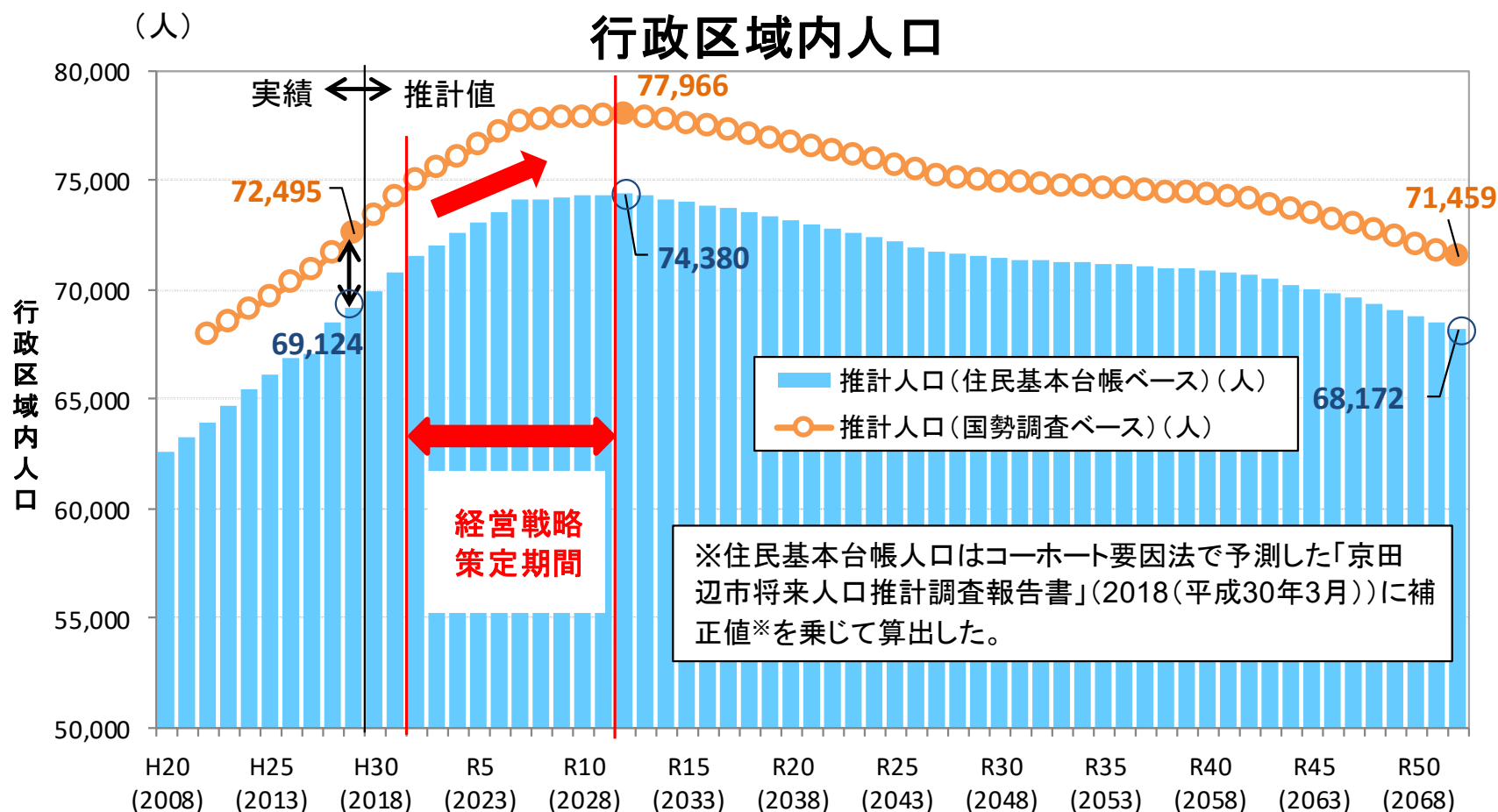
経営戦略 <基本方針>	
①施設総量の最適化（スペックダウン）	<ul style="list-style-type: none"> 給水人口及び給水量の見直しを踏まえた水道施設及び管路の最適化
②適切な資産管理	<ul style="list-style-type: none"> 適切な監視に基づいた資産の長期間使用 優先度・重要度に基づいた計画的な更新 年度別費用の平準化
③機能の集約化（ダウンサイジング）	<ul style="list-style-type: none"> 各施設の機能を踏まえた施設の統廃合 災害時における供給安定性の確保
④財源の確保	<ul style="list-style-type: none"> 各種経費節減 基金運用ルールの見直し
⑤技術者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携・官民連携について幅広く検討
⑥柔軟な組織機構への改革	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道の工事部署を一つの課への集約を検討

※税抜			
	工種	費用 (百万円)	備考
更新需要	建築	335	宮ノ口受水場・管理本館等 9施設
	土木	49	配水池(大住低区)等 全10施設
	電気	1,428	藪ノ本水源地機械電気等68施設
	機械	273	新浄水場電気計装設備等39施設
	計装	369	量水器38個等68施設
	その他	12	公用車、給水タンク等34施設
	小計	2,466	全239施設
大住浄水場 水源化計画	建築	16	導水ポンプ井、電気室・ポンプ室、導水ポンプ、電気設備、 場内配管、撤去
	土木	75	
	電気	300	
	機械	22	
	計装	0	
	その他	0	
小計	413		
施設耐震化計画	建築	0	大住低区配水池、大住高区配水池、松井ヶ丘配水池、 黒岩配水池、天王配水池、打田配水池、高船配水池、 田辺水源地、藪ノ本水源地、浜新田水源地
	土木	618	
	その他	70	
	小計	688	
拡張事業	土木・建築	199	南田辺西・東地区における拡張事業 管路整備拡張事業
	機械・電気	218	
	その他	57	
	小計	474	
合計		4,041	

1. 現行計画の概要

現行計画における水需要等の見通し

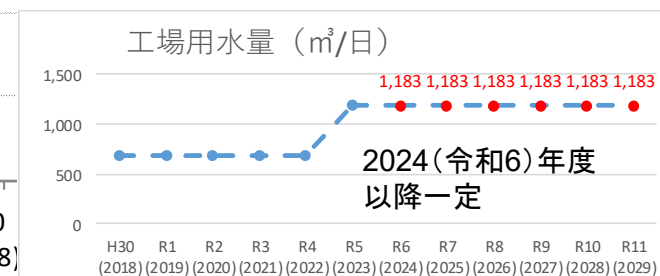
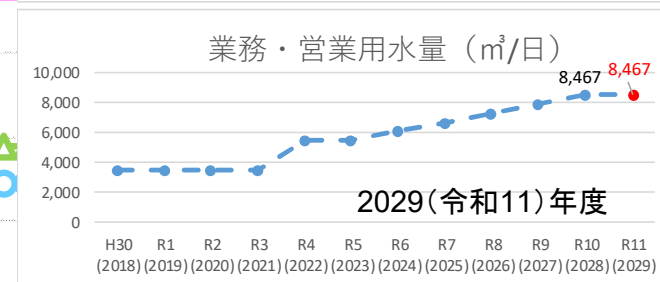
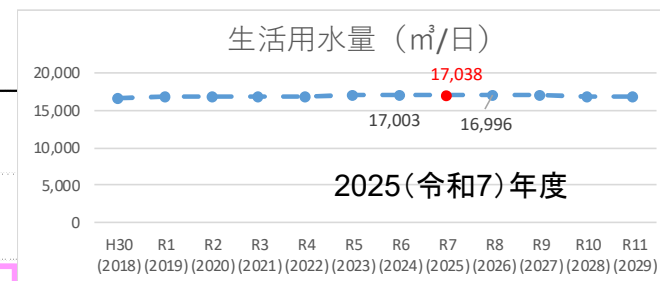
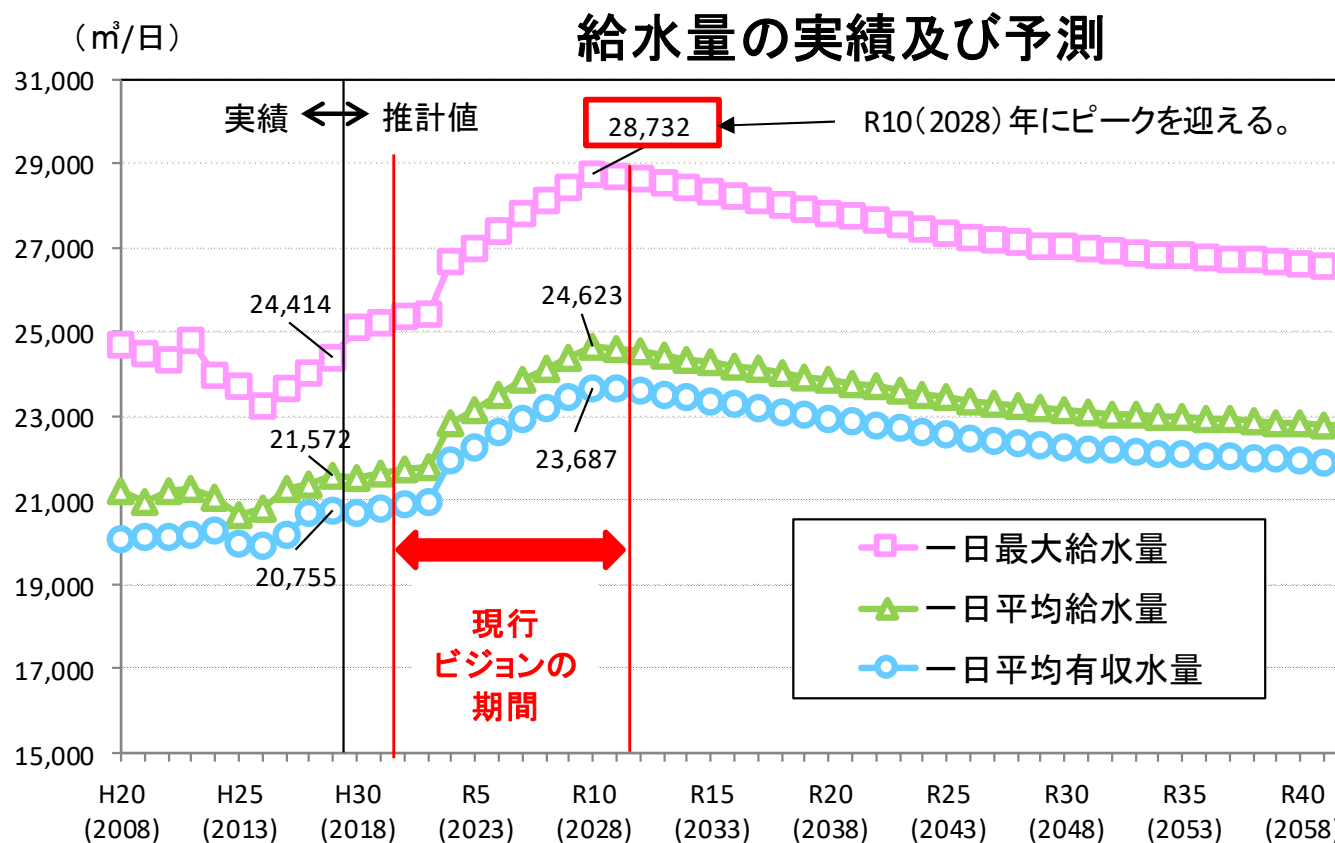
- 人口は計画期間中は増加していく見通しとして計画を策定している。
- ピークは2030（令和12）年度となり、それ以降は減少傾向に転じる見通しとしている。



1. 現行計画の概要

現行計画における水需要等の見通し

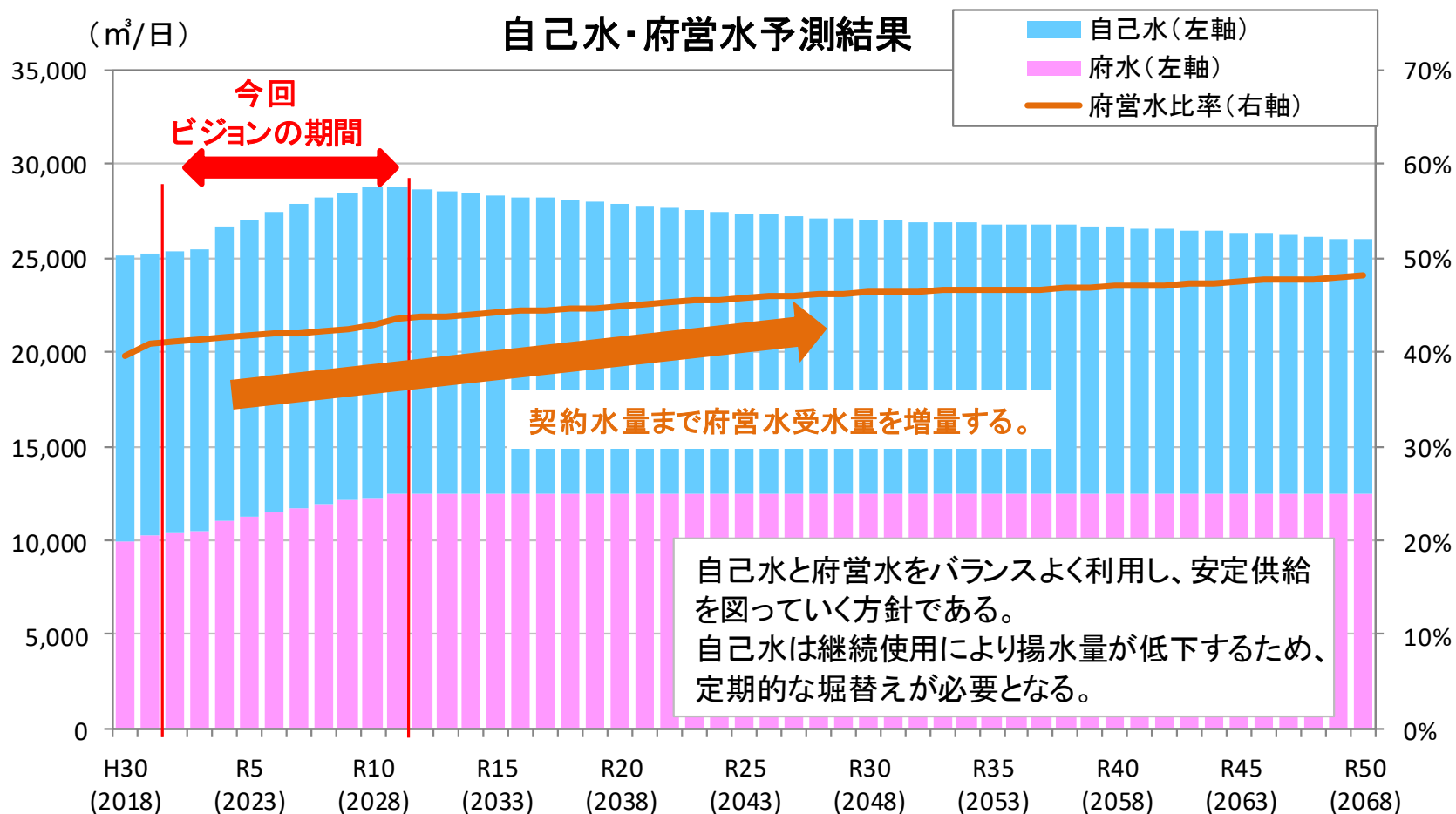
- 給水量については2028（令和10）年度にピークを迎えるまで増加し、その後は減少していく見通しとして計画を策定している。
- 給水量は用途別に推計しており、用途別水量ごとに最大水量が発生する年度が異なることから、給水量と人口のピークがずれている。



1. 現行計画の概要

現行計画における水需要等の見通し

- 水需要増に対しては、府営水を現状の契約受水量内の範囲で自己水とのバランスを見ながら増量することで対応する方針である。



① 水需要動向などを踏まえた今後の水需要と給水収益

- 今後の水需要と給水収益の見直しを行う。
- 本資料では**人口及び給水量の近年の動向**を確認し、実績値と計画値の乖離状況を確認するとともに、水需要を見直すにあたっての留意事項を整理する。

② 施策進捗状況などを踏まえた今後の事業量（投資）

- 近年の事業量や施策の進捗状況を踏まえ、京田辺市水道事業を取り囲む課題を整理し、ビジョンの施策見直しを行うとともに今後の事業量の見直しを行う。
- 本資料では**投資額の近年の動向と施策の進捗状況**を整理する。

③ ①、②にもとづいた経営の見直し

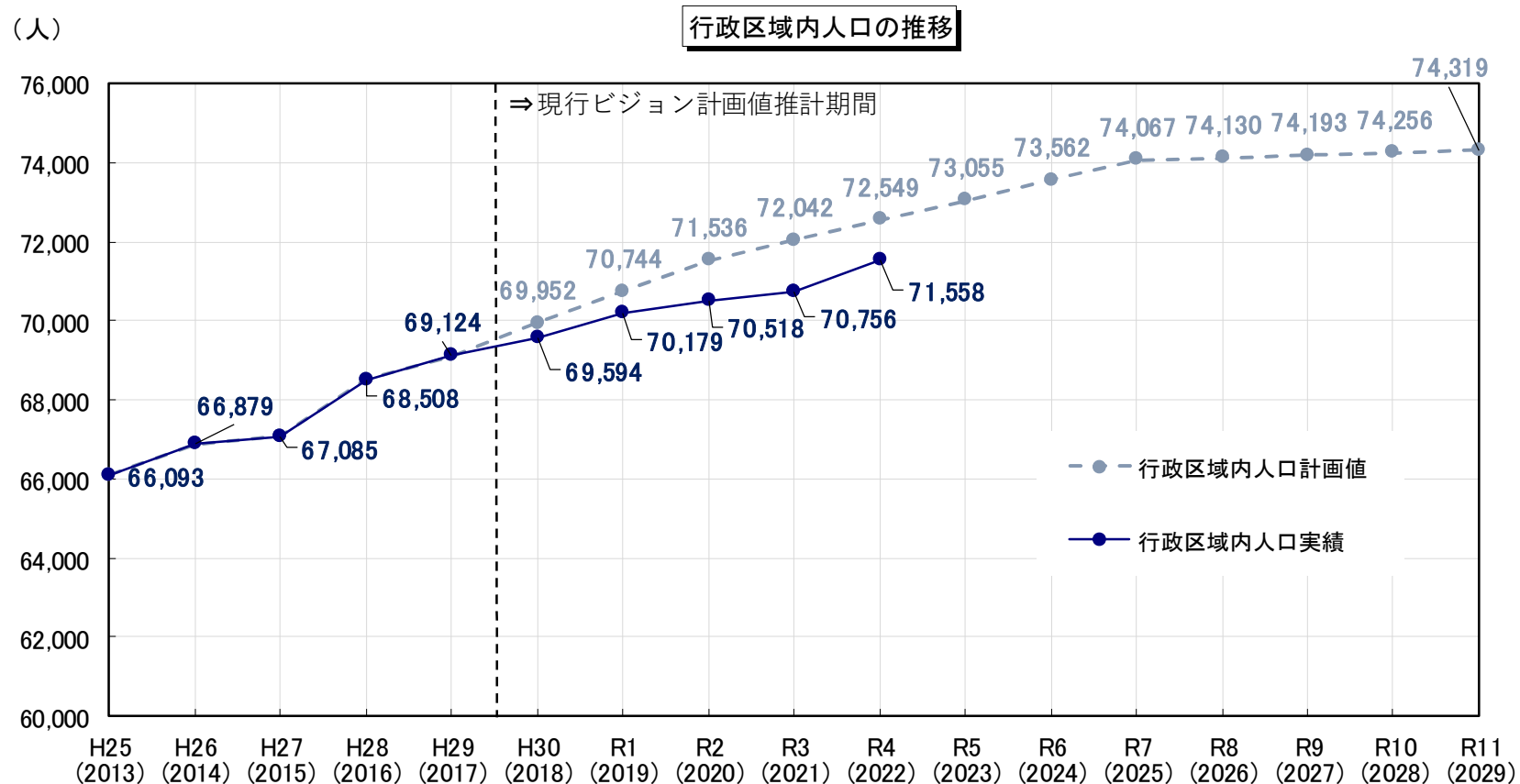
- ①、②にもとづいた今後の財政を見通す。そして、料金改定の必要性を確認し、改定が必要な場合は、その時期や改定幅の目安の確認する。
- 本資料では**近年の経営状況**を整理する。

6章では本資料で整理した内容を踏まえて**今後の審議会の進め方**を示す。

3. 人口・給水量の近年の動向

行政区域内人口

- 計画値と実績で乖離が生じている。
- 国立社会保障人口問題研究所が令和2年度の国勢調査を反映した各市町村の推計人口を2023（令和5）年12月22日に公表しており、これに伴い市の人口ビジョンが見直される可能性があることに留意して水需要予測を見直す必要がある。



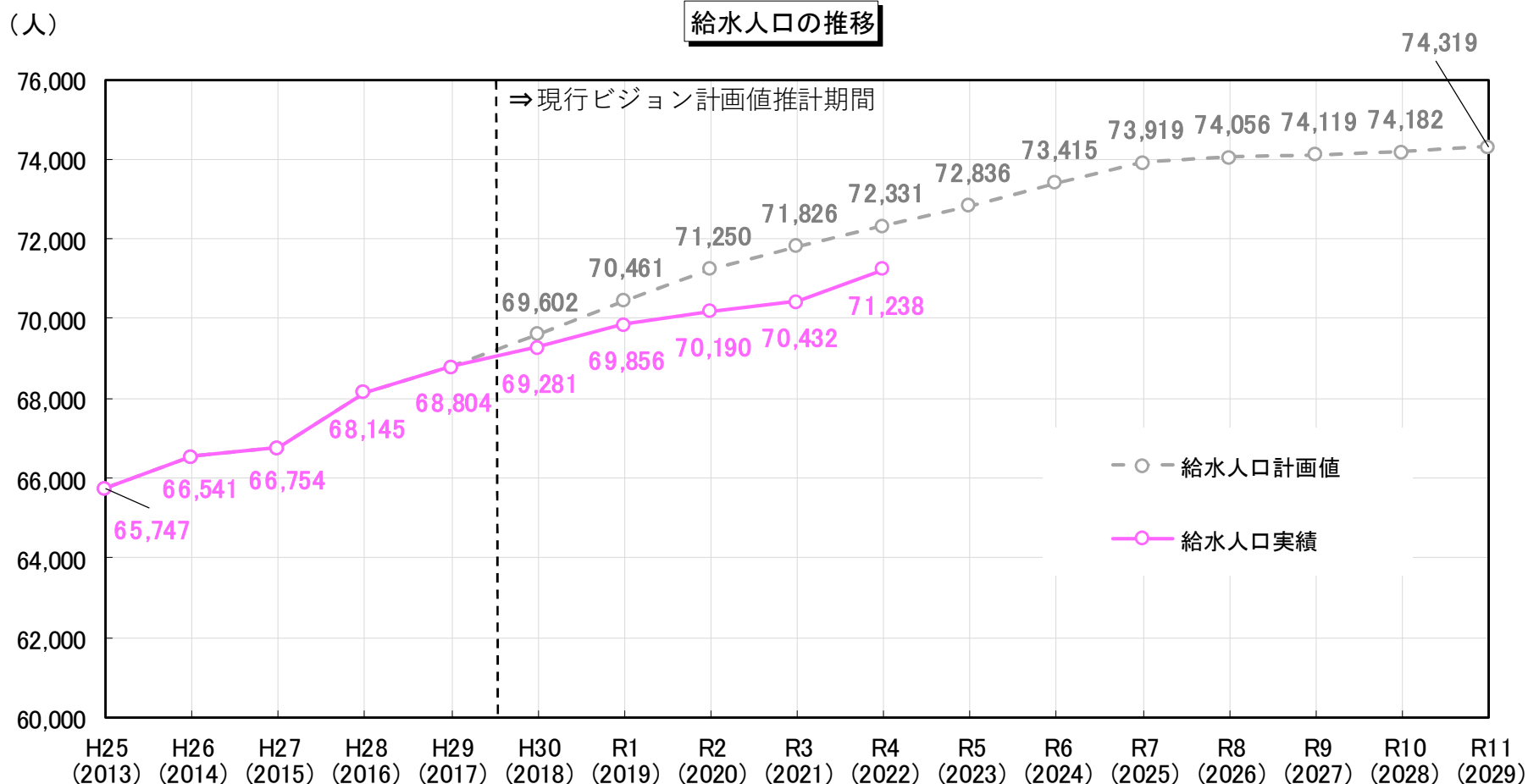
出典：京田辺市水道ビジョン（R4.3一部改訂版）p7 図2.4 人口及び給水量の実績

3. 人口・給水量の近年の動向

給水人口

- 給水人口は給水区域内人口※に給水普及率を乗じて算出した人口である。
- 行政区域内人口と同様に計画値と実績で乖離が生じている。

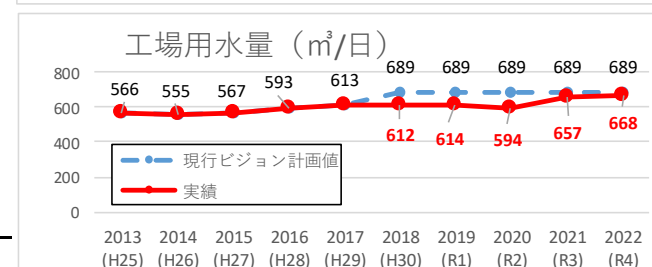
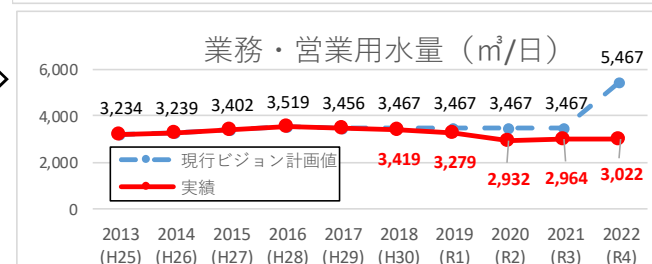
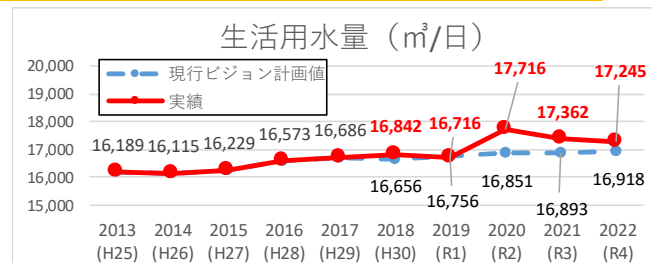
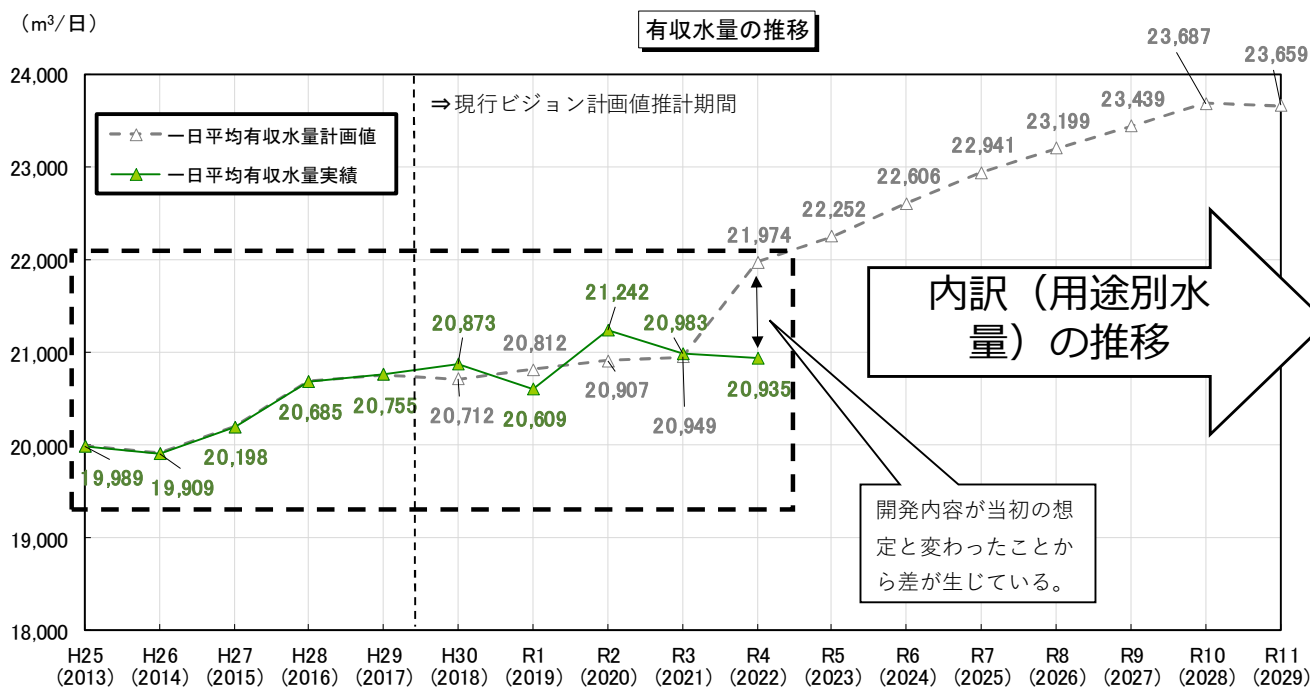
※本市は行政区域内人口 = 給水区域内人口である。



3. 人口・給水量の近年の動向

有収水量（料金収入のあった水量）

- 実績と計画値がほぼ同じくらいの数値で推移している。
- 2020（令和2）年度以降の水量については、**新型コロナウイルスの蔓延による影響を受けている可能性があることに留意**する必要がある。
- 南田辺西地区等において開発計画があり、**今後は開発に伴って水需要が増加する可能性が高いことに留意**する必要がある。
- また、増加する水需要に対して水源を確保しておく必要がある。

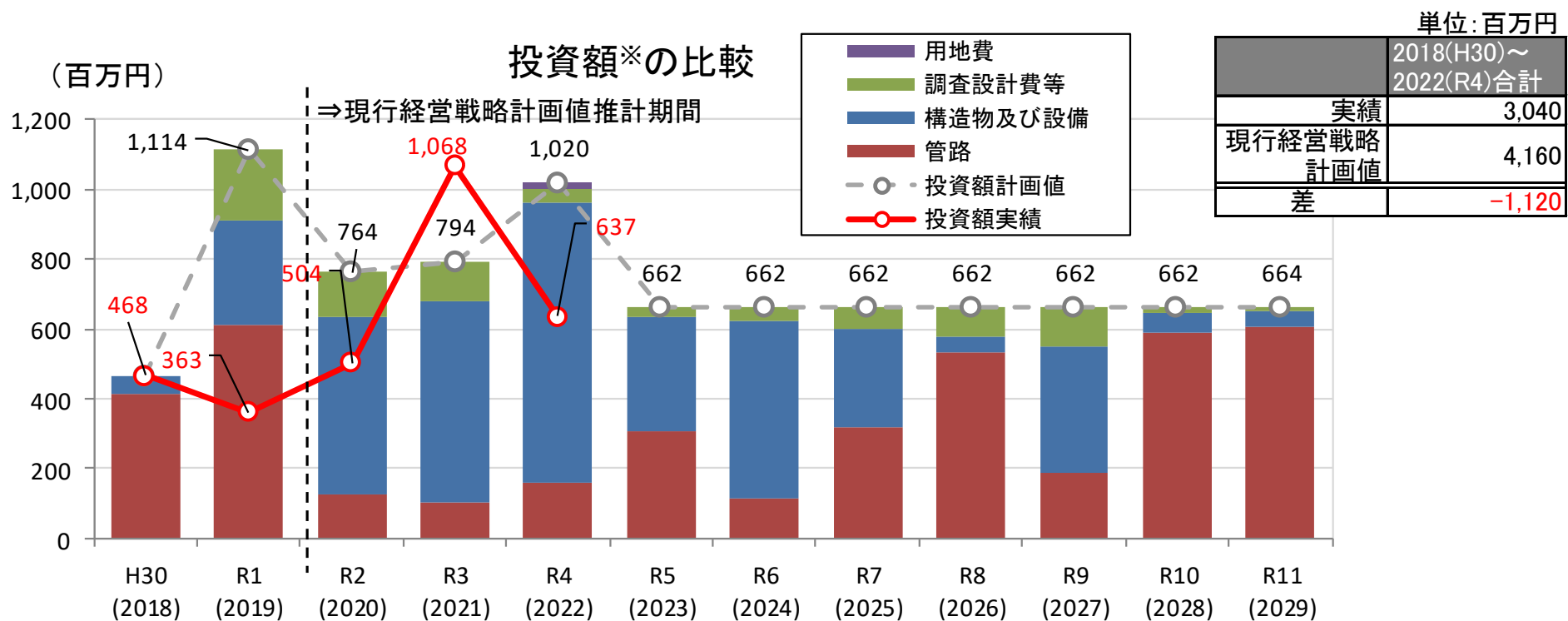


4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

投資額（税抜き額）

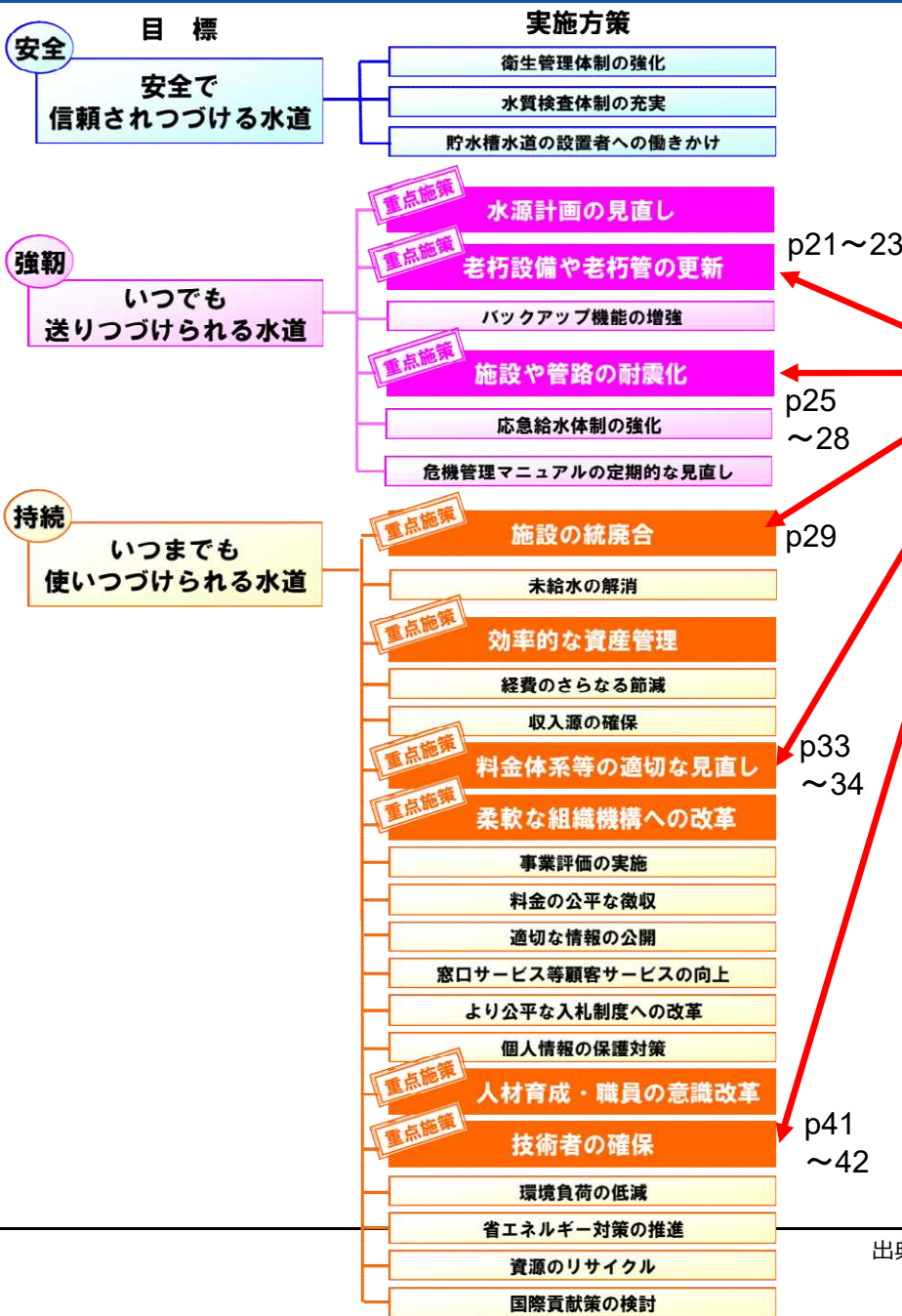
- 投資額の実績値は363百万円～1,068百万円で推移しており、2018（平成30）～2022（令和4）年度における平均値は608百万円である。
- 大住浄水場水源地化（413百万円）や拡張事業（439百万円）等の実施時期が当初の想定と変わっているため、近年5か年の投資額総額は実績値が計画値を下回っている。



※投資額は建設改良費のうち配水設備工事費、施設改良費及び拡張事業費を足した額

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業



本資料ではビジョンの施策のうち、主に重点施策について取組状況を整理した。
このうち経営のヒト・モノ・カネの視点からこれらの5つの実施方策の取組状況を紹介する。

出典：京田辺市水道ビジョン（R4.3一部改訂版）p48 図5.4 本市水道ビジョンの施策体系図

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

安全で信頼されつづける水道（安全）

水道事業

➤ 衛生管理体制の強化

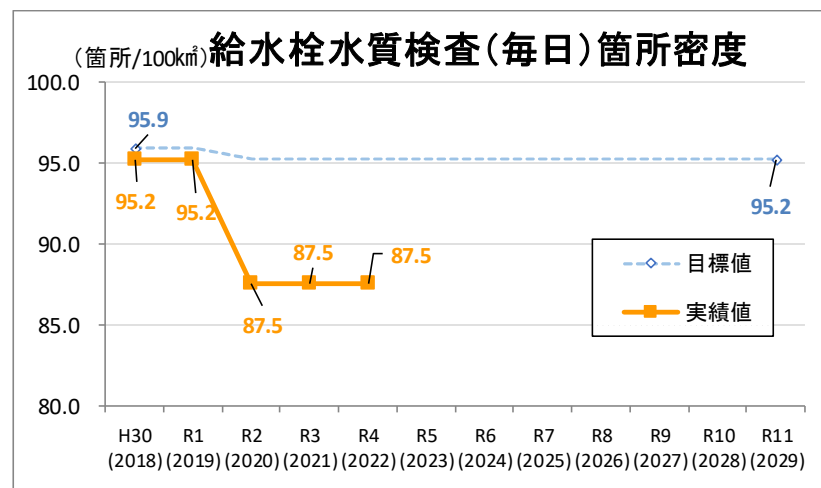
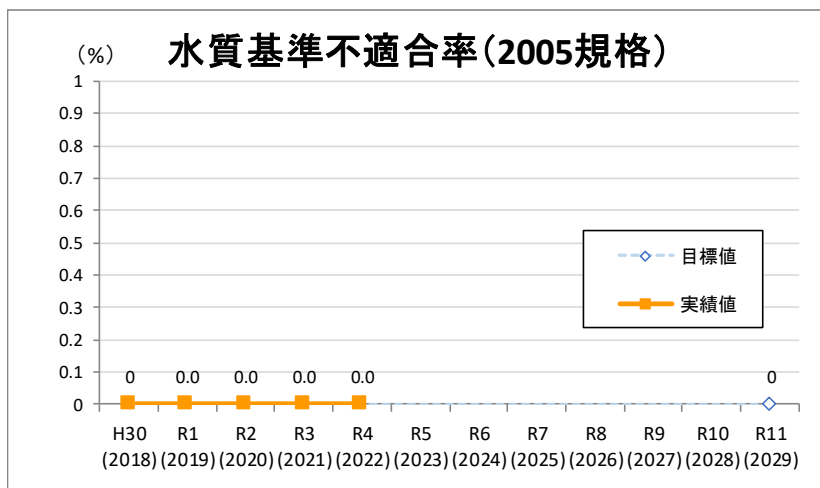
具体的な取組

● 水安全計画の運用

水安全計画の策定を市民に公表し、計画に基づくリスク管理を実行します。管理結果は定期的に整理し、PDCAサイクルで適宜計画の見直しを行います。

現状の取組状況

水安全計画に基づくリスク管理を実行し、結果を整理した。
ホームページの更新を行い、その結果を市民へ公表した。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

安全で信頼されつつける水道（安全）

水道事業

➤ 水質検査体制の充実

具体的な取組

● 水質検査回数の見直し

水質検査結果を経年分析することで、水質悪化の懸念が生じる場合、原水水質検査や浄水水質検査等の検査回数増加について検討、実施していきます。

現状の取組状況

水質検査結果の経年分析と検査回数の点検を毎年継続して実施している。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

安全で信頼されつつける水道（安全）

水道事業

➤ 貯水槽水道の設置者への働きかけ①

具体的な取組

● 貯水槽水道に対する調査の実施

定期的に貯水槽水道に対する調査を実施し、維持管理状況の把握に努めます。

現状の取組状況

貯水槽水道の維持管理状況を把握するためにアンケート調査を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

安全で信頼されつつける水道（安全）

水道事業

➤ 貯水槽水道の設置者への働きかけ②

具体的な取組

● 貯水槽水道設置者に対する指導、助言及び勧告

定期、不定期の調査をもとに、管理不徹底な設置者には行政的な指導、助言及び勧告を行います。

現状の取組状況

管理不徹底な施設について現地調査と指導等を行った。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

安全で信頼されつつける水道（安全）

水道事業

➤ 貯水槽水道の設置者への働きかけ③

具体的な取組

● 貯水槽水道設置者に対する啓発活動

広報ほつと京たなべやホームページなどで貯水槽水道の適切な維持管理等に関する情報提供を行います。

現状の取組状況

市の広報に貯水槽の適切な維持管理に係る記事を掲載した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 水源計画の見直し①

具体的な取組

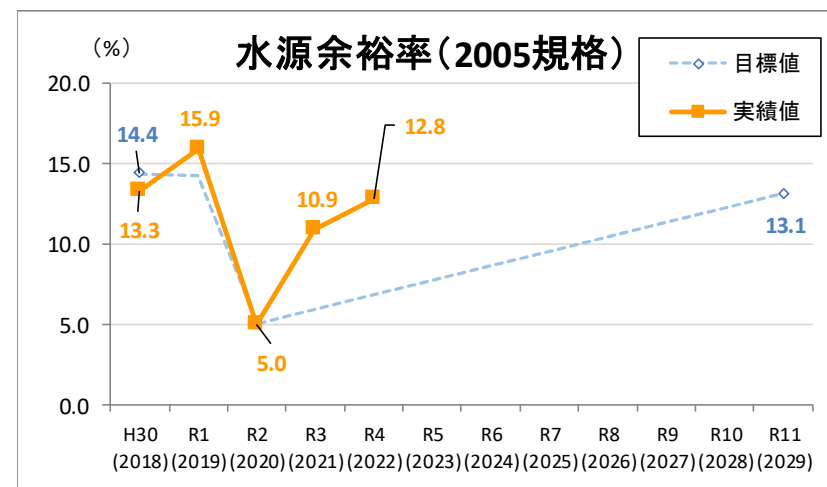
● 適正な揚水量の確保

自己水源である井戸は、継続して使用していると揚水量が減少するため、今後も定期的に改修や堀替え等を実施し、適正な揚水量確保に努めます。

現状の取組状況

令和2年度に薪第1取水井戸の改修工事を実施、令和3年度に浜新田水源の改修工事を実施、令和4年度に普賢寺取水井戸の堀替えを実施した。

また、藪ノ本取水井戸では集水管の洗浄作業を継続して実施している。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 水源計画の見直し②

具体的な取組

● 府営水の活用

本市では自己水を中心に水運用を行い、非常時における供給信頼性の高い府営水の一部をもって、災害等のリスク対応の予備力や将来の水需要増加への備えとし、安定給水を図ってきました。

今後の水需要の増加に対しては余力のある府営水道で対応することとし、夏季等の水需要ピーク時における水源運用では、府営水への依存度を高めていきます。

現状の取組状況

毎年配水量分析を実施したうえで府営水の依存度を設定している。

令和3年度には浜新田水源地取水井改修工事の際に自己水源の代替水源として府営水を使用した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 老朽設備や老朽管路の更新①

具体的な取組

● 老朽設備の更新

機械・電気計装設備は、定期的なメンテナンスを行い、法定耐用年数より10年長く使用します。

現状の取組状況

更新時期を迎えた設備の更新を実施した。

令和2年度に薪浄水場の受変電設備更新工事を実施、令和3年度に薪浄水場大住送水ポンプ更新工事、浜新田水源地受変電設備及び動力盤更新工事を実施、令和4年度に薪浄水場～田辺低区配水池間遠方監視制御装置取替工事と天王配水池他2施設水位計取替工事を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 老朽設備や老朽管路の更新②

具体的な取組

● 管路腐食状況の調査

老朽管更新時にあわせて管路の腐食状況を調査し、更新周期の精度を高めていきます。

現状の取組状況

配水管については工事で既設管の接続、既設管の取り出しを行う際に毎回管路の腐食状況を確認している。

水管橋については令和3年度に点検業務を行い更新順位のランク付けを実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 老朽設備や老朽管路の更新③

具体的な取組

● 老朽管の更新

更新周期にしたがい、管路の重要度や管材質等に応じて更新優先順位を定め、計画的な老朽管更新を行います。当面は、老朽管の集中する松井ヶ丘地区の配水管更新、基幹管路（導水管、送水管、配水本管）を中心とした更新等を行います。

現状の取組状況

管路耐震性適合調査及び基幹管路耐震化計画策定業務で策定した更新計画に基づき老朽管の更新工事を実施している。

令和2年度には松井ヶ丘地区と田辺勇田地内の配水管更新工事を実施、令和3年度には浜新田～薮ノ本間の導水管更新工事、松井ヶ丘地区の配水管改良工事を実施、令和4年度には宮ノ口～南田辺北間の基幹管路（送水管）の更新工事と普賢寺地区送水管の更新工事を実施した



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 施設や管路の耐震化①

具体的な取組

● 施設耐震化の実施

簡易耐震診断の結果から、薪浄水場（平成27年度）と宮ノ口受水場（平成28年度）の耐震補強を実施しました。

また、大住低区配水池、普賢寺浄水場、大住高区配水池、田辺低区配水池、松井ヶ丘配水池、同志社配水池、黒岩配水池及び天王配水池の詳細耐震診断を実施しました。他の施設についても引き続き詳細耐震診断等に着手していきます。

現状の取組状況

耐震性が不明な配水池に耐震診断を実施し、その結果から必要に応じて耐震補強を実施した。

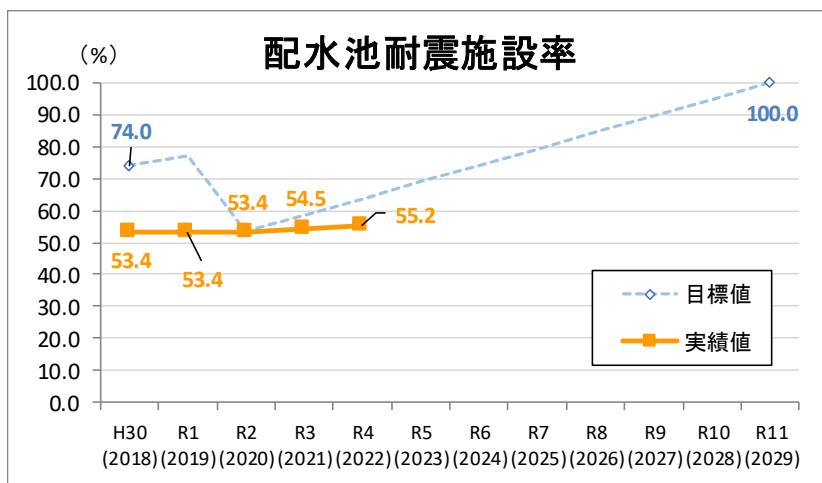
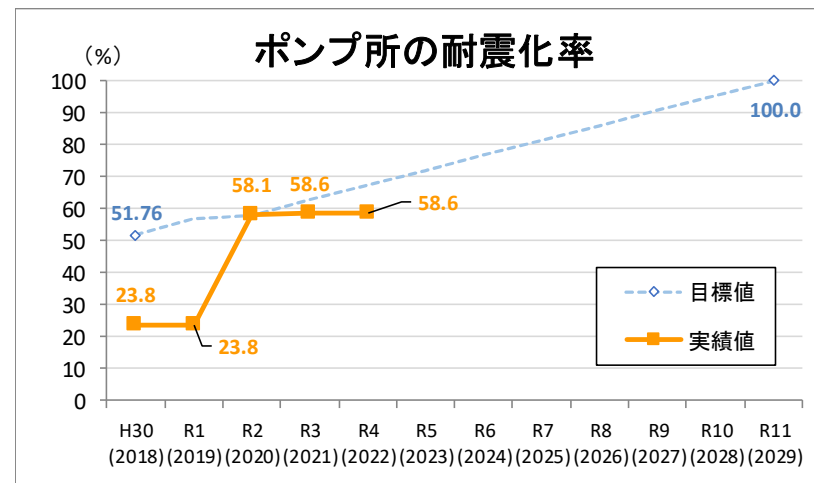
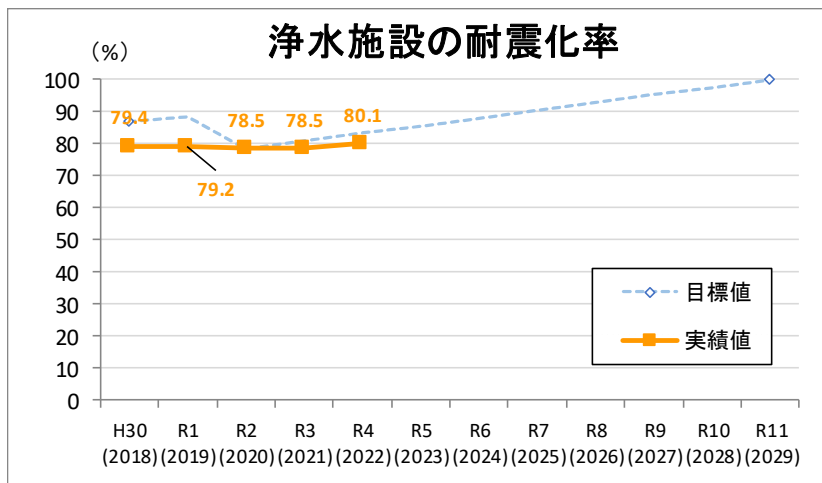
令和2年度に天王配水池他1池の耐震診断を実施、令和3年度には打田配水池及び高船配水池の耐震診断を実施、令和4年度には天王配水池の施設改修工事を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 施設や管路の耐震化①



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 施設や管路の耐震化②

具体的な取組

● 管路耐震化の実施

ダクタイル鋳鉄管のうち、K形継手のものは耐震型継手でなくても地盤条件によって耐震性を有すると判断することができます。管路ごとの地盤条件を整理し、現状でも耐震性を有すると判断できる管路がどれくらいあるか平成28年度に調査しました。調査した結果でも耐震性のない管路については、基幹管路を優先して管路更新時に耐震性の高い管路へと布設替し、地震時の応急復旧期間の短縮に努めます。

現状の取組状況

管路耐震性適合調査及び基幹管路耐震化計画策定業務で策定した更新計画に基づき更新工事を実施した。

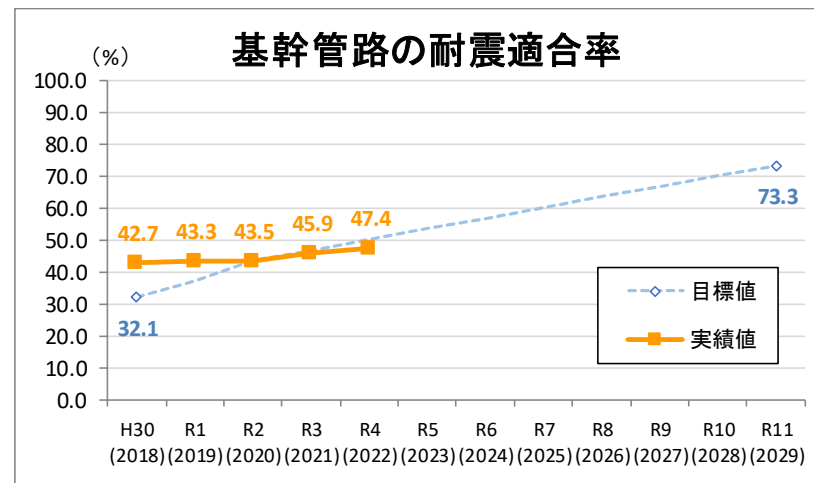
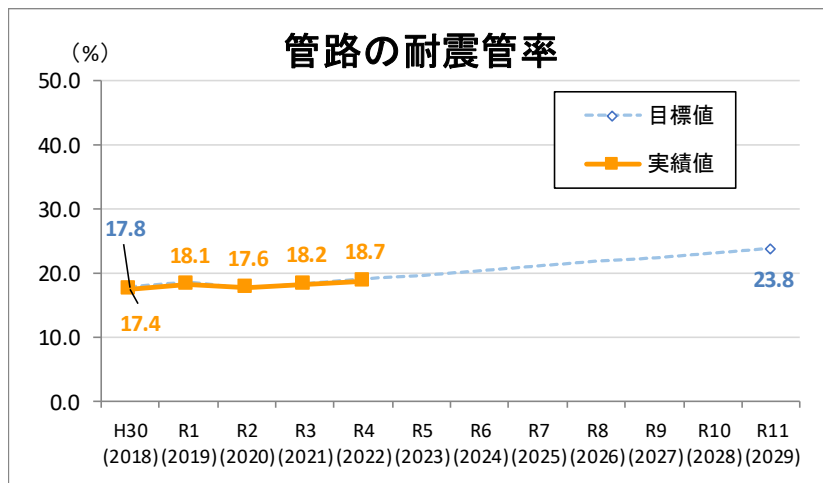
令和2年度に市道鳥羽田浅池線送水管布設工事と松井ヶ丘地区他2地区の配水管の改良工事を実施、令和3年度に市道多田羅宮ノ口送水管布設工事、浜新田～藪ノ本間導水管改良工事、大住責谷地内配水管改良工事、松井ヶ丘地区配水管改良工事を実施、令和4年度に宮ノ口送水管の改良工事と普賢寺地区送水管布設工事を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

水道事業

いつでも送りつづけられる水道（強靱）

➤ 施設や管路の耐震化②



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 施設の統廃合

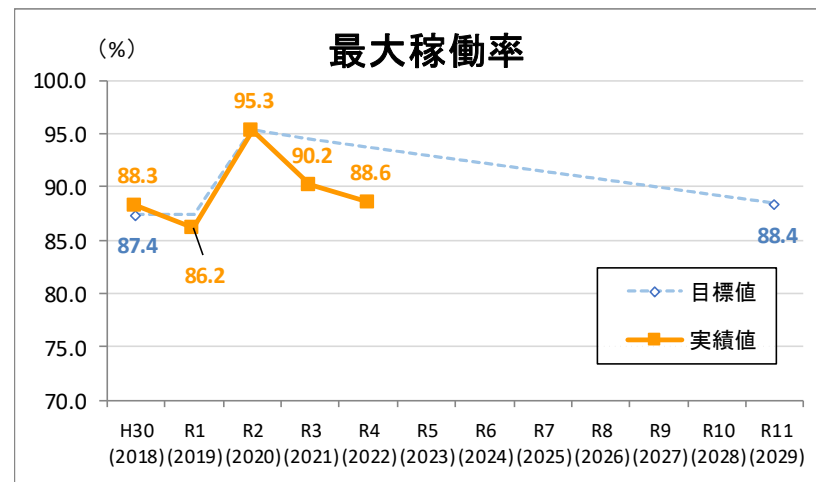
具体的な取組

● 大住浄水場の廃止（水源地化）

老朽化した大住浄水場の浄水処理機能を廃止し、一部機能を薪浄水場へ移転します。大住浄水場跡地は水源地として整備します。

現状の取組状況

令和2年度に大住浄水場の廃止（水源地化）について検討を実施した。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 効率的な資産管理①

具体的な取組

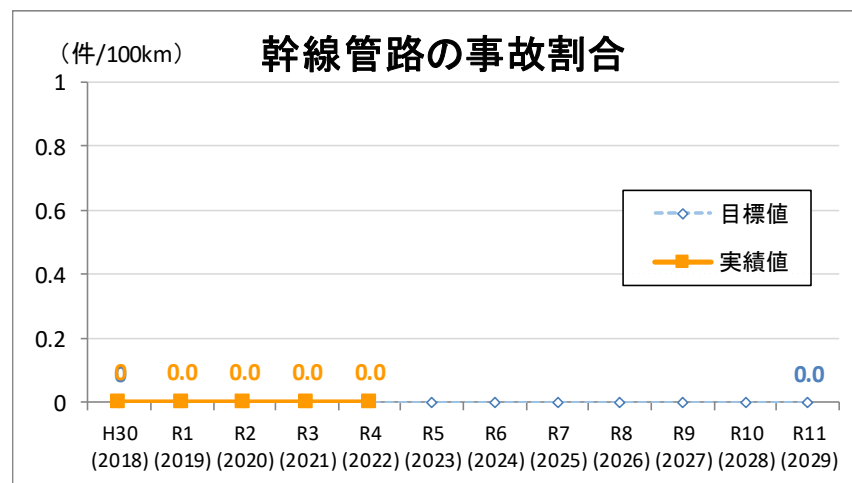
● 更新計画の策定・実施

更新周期や経営戦略等での財政見通しをもとに施設や管路の具体的な更新計画を策定し、実施します。

現状の取組状況

管路耐震性適合調査及び基幹管路耐震化計画策定業務で策定した更新計画を基に更新工事を実施した。

令和2年度は市道鳥羽浅池線送水管布設工事を実施、令和3年度は浜新田～藪ノ本導水管改良工事を実施、令和4年度は宮ノ口～南田辺北間送水管改良工事、普賢寺地区送水管改良工事を実施した。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 効率的な資産管理②

具体的な取組

● ミクロマネジメントの実施

日常の運転管理・点検・診断評価・補修等で得られた情報をデータベース化するとともに、資産の劣化状況を正確に把握します。

現状の取組状況

管路については毎年作成する水道管（配水管及び給水管）修理報告書をもとに水道管の修繕履歴のデータベース化を継続して実施している。

水道施設及び設備については、令和3年度は水道施設台帳（電子化）を導入してデータベース化を実施、令和4年度は新たに実施した修繕や改良工事の内容に基づき水道施設台帳のデータベースの更新を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 効率的な資産管理③

具体的な取組

● 更新周期の見直し

ミクロマネジメントの結果をもとに更新周期の精度を向上させ、次の更新計画見直し時に反映させます。

現状の取組状況

令和3年度に水管橋点検業務の結果を基に、水管橋更新計画の見直しを実施した。更新周期の精度を高めるために管路巡視、点検を毎年継続して実施している。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 料金体系等の適切な見直し①

具体的な取組

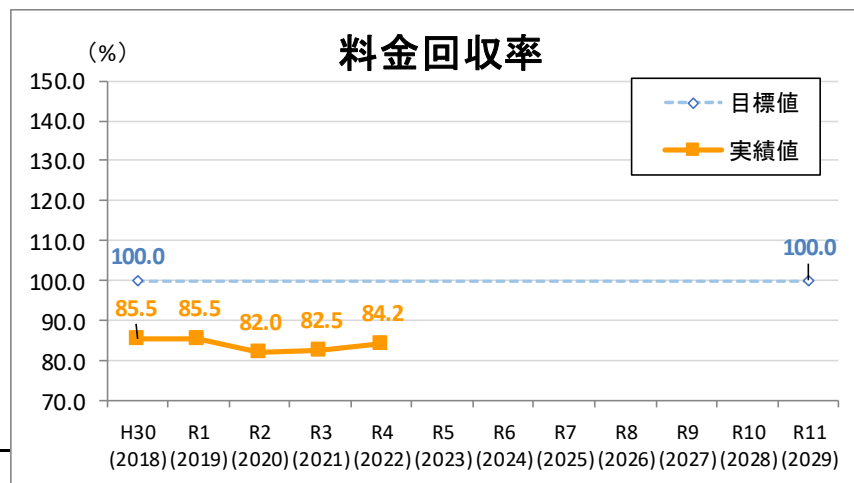
● 料金体系の見直し（改定）

安全・安心な給水を継続するために、施設、管路の耐震化工事や給水拠点整備等を早期に着手する必要があることから、経費節減対策等の企業努力を行いつつ、適切な時期に料金体系の見直し（改定）を行います。

見直し（改定）にあたっては、ライフスタイルの変化等も踏まえ、広く利用者（市民）のご理解を求めながら進めていきます。

現状の取組状況

毎年継続して料金回収率の推移を把握するとともに経費削減対策に取り組むことで適切な時期に料金体系の見直しが行えるように努めている。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 料金体系等の適切な見直し②

具体的な取組

● 基金運用ルールの見直し

現在、拡張事業費や企業債の償還元金に充てる財源としてのみ取り崩すことのできる建設基金は、更新事業費等にも充当できるように運用ルールを見直します。

現状の取組状況

令和3年度に建設基金を過去に拡張した施設の更新事業に対して取り崩せるように条例改正を実施した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 柔軟な組織機構への改革

具体的な取組

● 修繕部門の強化

施設や管路の長寿命化・延命化に伴い懸念される修繕業務の増加に対し、迅速に活動できる体制を検討します。

● 事務分担の見直し

複数の係にまたがる事務を再整理し、実際の事務作業の流れを円滑にする単位で課・係を再配置できるよう見直しを行います。

現状の取組状況

修繕業務の増加に伴い、柔軟にかつ迅速に対応でき、かつ企業及び人材の育成等を見据えた組織機構の検討を進めた。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 人材育成・職員の意識改革①

具体的な取組

● 外部研修会への参加

国の水道技術管理者研修、日本水道協会による技術研修会や講習、公益財団法人水道技術研究センターによる研修や講習会、国立医療保健科学院による教育研修等、各関係機関が開催する外部研修会へ積極的に参加します。

● 広域連携での人材育成

近隣市町や京都府営水道と共同での勉強会や京都市等の大規模水道との実地研修等を実施し、水道事業における施工・管理技術を向上させ、計画的に次世代へ継承できるようにします。

現状の取組状況

水道技術管理者資格取得講習会や上水道工事品質確保の実務ポイント講習会等の国や日本水道協会等が実施する外部研修会や危険物保安監督者講習等の水道事業に必要な資格の維持に必須の講習会へ継続して参加している。

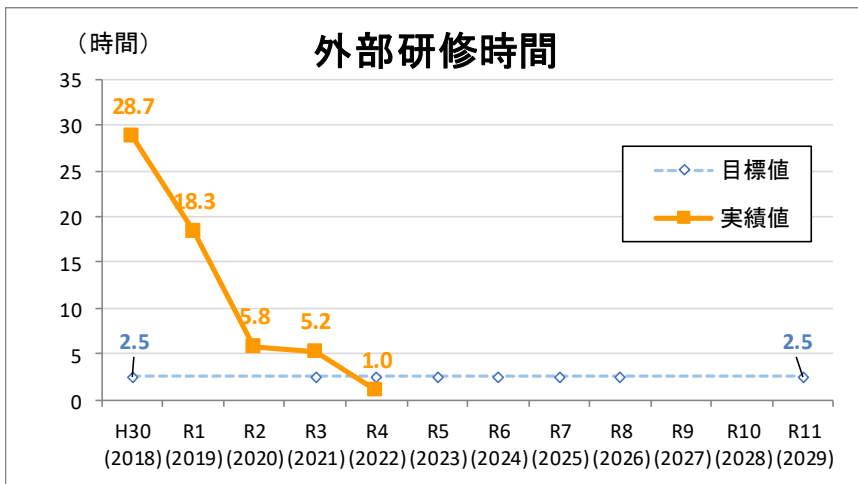
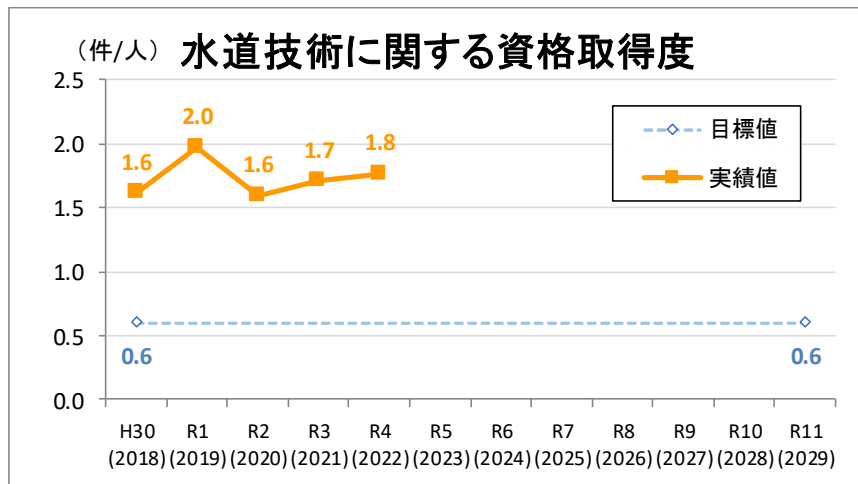
また、管路更新事業研修会や市町村水道事業初任者研修等の近隣市町や京都府営水道の職員が共同で参加する研修へ継続して参加している。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 人材育成・職員の意識改革①



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 人材育成・職員の意識改革②

具体的な取組

●ナレッジマネジメントの実践

熟練職員の持つ知識を文書化することで、作業方法や文書の標準化・マニュアル化を図り、職員間で情報共有できるようにします。また、業務改善策の提案・表彰制度を活用し、職員の意識改革を行います。

現状の取組状況

熟練職員が持つ知識を文書化した各種マニュアルを組織内で共有した。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 人材育成・職員の意識改革③

具体的な取組

● 人事評価制度の導入

平成24年10月から人事評価制度を実施しています。

年功序列的・横並びの人事管理から能力・業績を重んじる人事管理へ変更し、職員の能力を最大限に発揮して質の高い行政サービスを効率的・安定的に供給していきます。

現状の取組状況

本庁が行っている人事評価を実施している。

4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 技術者の確保①

具体的な取組

●再任用制度の活用

熟練技術者の優れたノウハウを若手技術者へ継承するため、定年退職者等の再任用制度活用について検討します。

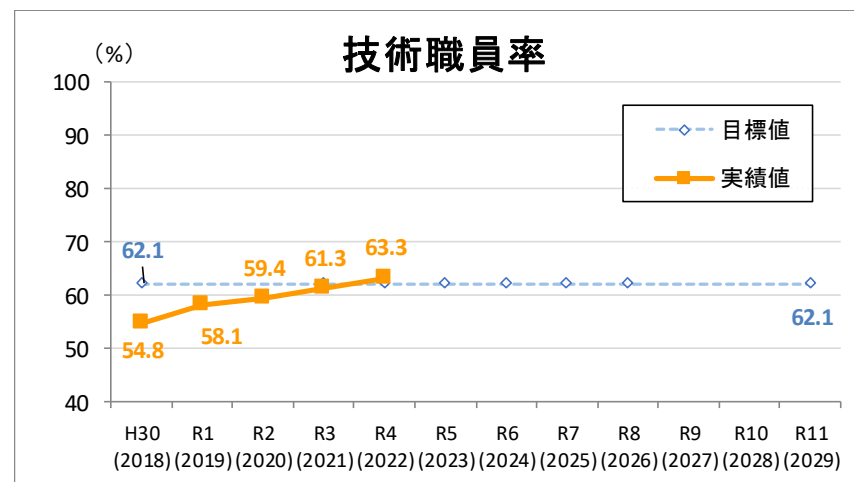
●技術系職員の中途採用

即戦力となる中堅技術者が少ないため、引き続き技術系職員の中途採用を実施します。特に少数精鋭での浄水場運転管理を行うため、機械・電気設備のトラブル対応、改修更新時の企画設計施工等ができる技術者の確保に努めます。

現状の取組状況

再任用制度の活用し技術系職員を配属した。

継続して採用を要望していた設備系の技術系職員を令和4年度に採用した。



4. 投資額の近年の動向と施策の進捗状況

いつまでも使いつづけられる水道（持続）

水道事業

➤ 技術者の確保②

具体的な取組

● 広域連携・官民連携の推進

京都府水道事業広域的連携等推進協議会を通じて、広域連携のあり方について議論するとともに、本市の事業規模でできることについて検討していきます。また、官民連携についても、技術者確保の観点から可能性の検討を行います。

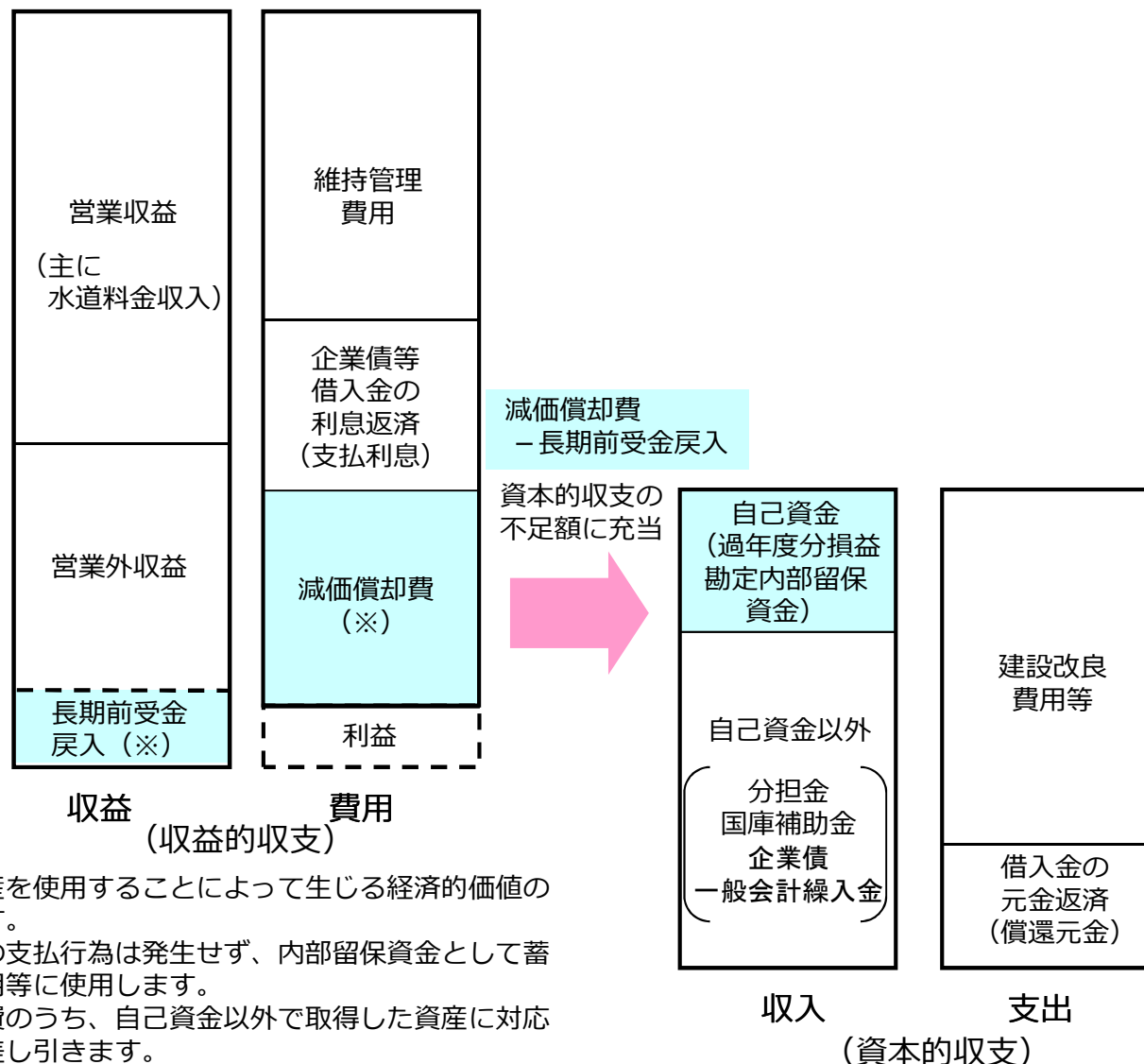
現状の取組状況

京都府営水道ビジョン（令和5年3月京都府）や京都水道グランドデザイン（平成30年11月京都府環境部）の改定に向け、広域連携の在り方について議論を継続している。

5. 近年の経営状況

水道事業会計について

- 水道事業会計は、収益的収支と資本的収支という2つの会計で計算する。
- 収益的収支は、1年間の経常的な営業活動に伴って発生する収入と支出を整理したもの。
- 資本的収支は、長期的な事業活動に必要な支出（建設改良費用等）と収入（その財源）を整理したもの。
- 収益的収支で生まれた利益や減価償却費は内部留保資金として貯えられ、資本的収支の不足額に充当される。



※減価償却費とは、取得した固定資産を使用することによって生じる経済的価値の減少を費用として換算するものです。
 費用の項目に計上しますが、実際の支払行為は発生せず、内部留保資金として蓄えられ、老朽化した資産の更新費用等に使用します。
 また、長期前受金戻入は減価償却費のうち、自己資金以外で取得した資産に対応するもので、内部留保資金からは差し引きます。



5. 近年の経営状況

水道料金（令和5年12月1日現在）

- 用途別（一般用、湯屋用、臨時用）、口径別（13mm～200mm）の料金体系となっている。
- 水道料金は基本料金と従量料金で構成される。

（1か月単位、消費税抜き）

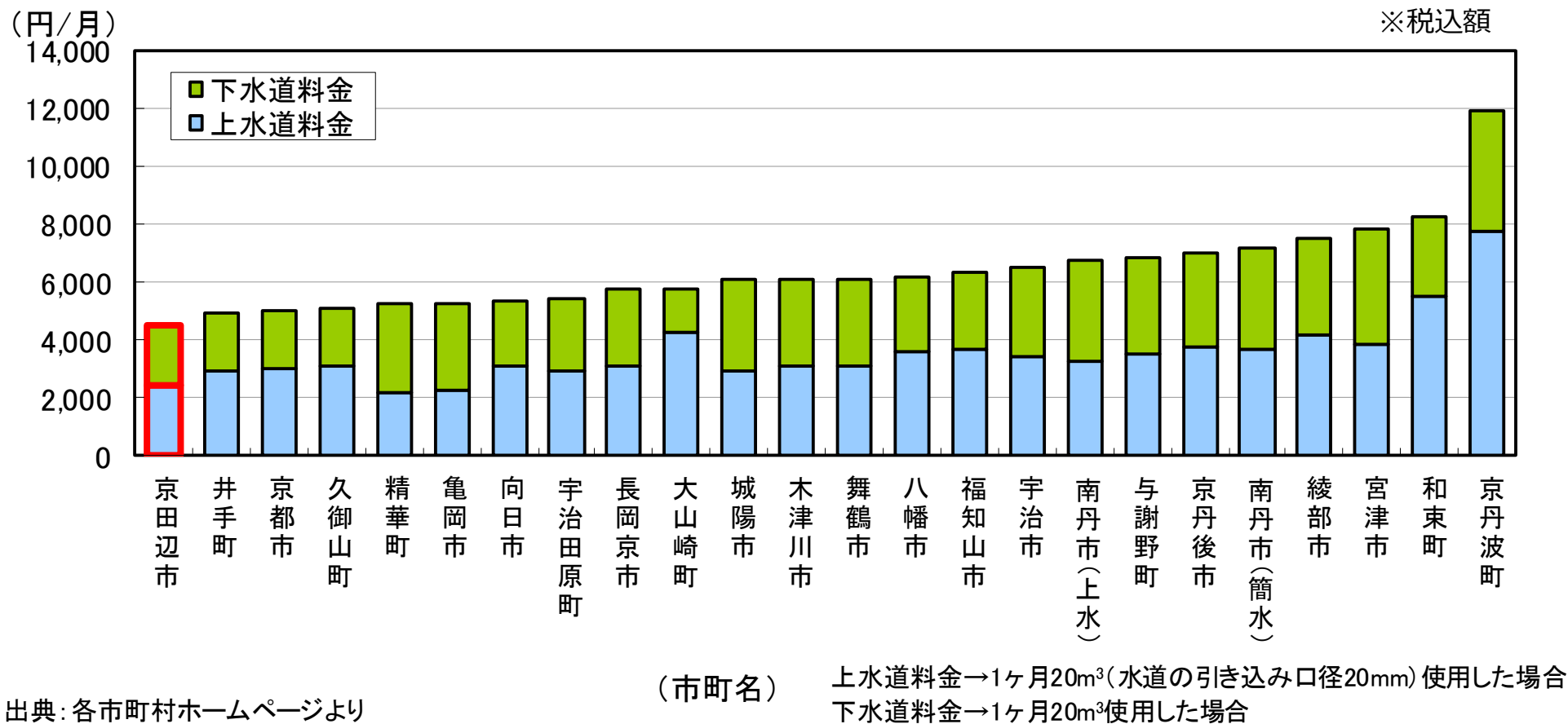
口径 (mm)	基本料金 (円)	従量料金(円/m ³)				
		1～8m ³	9～15m ³	16～20m ³	21～30m ³	31m ³ 以上
13	553		109			
20	1,066		28		142	
25	1,780					
30	3,238					190
40	3,278					
50	3,966					
75	4,128			52		
100	64,761					
150	105,238					
200	161,904					

※料金は上表により算出した額に消費税を加える。

5. 近年の経営状況

水道料金比較（令和5年12月1日現在）

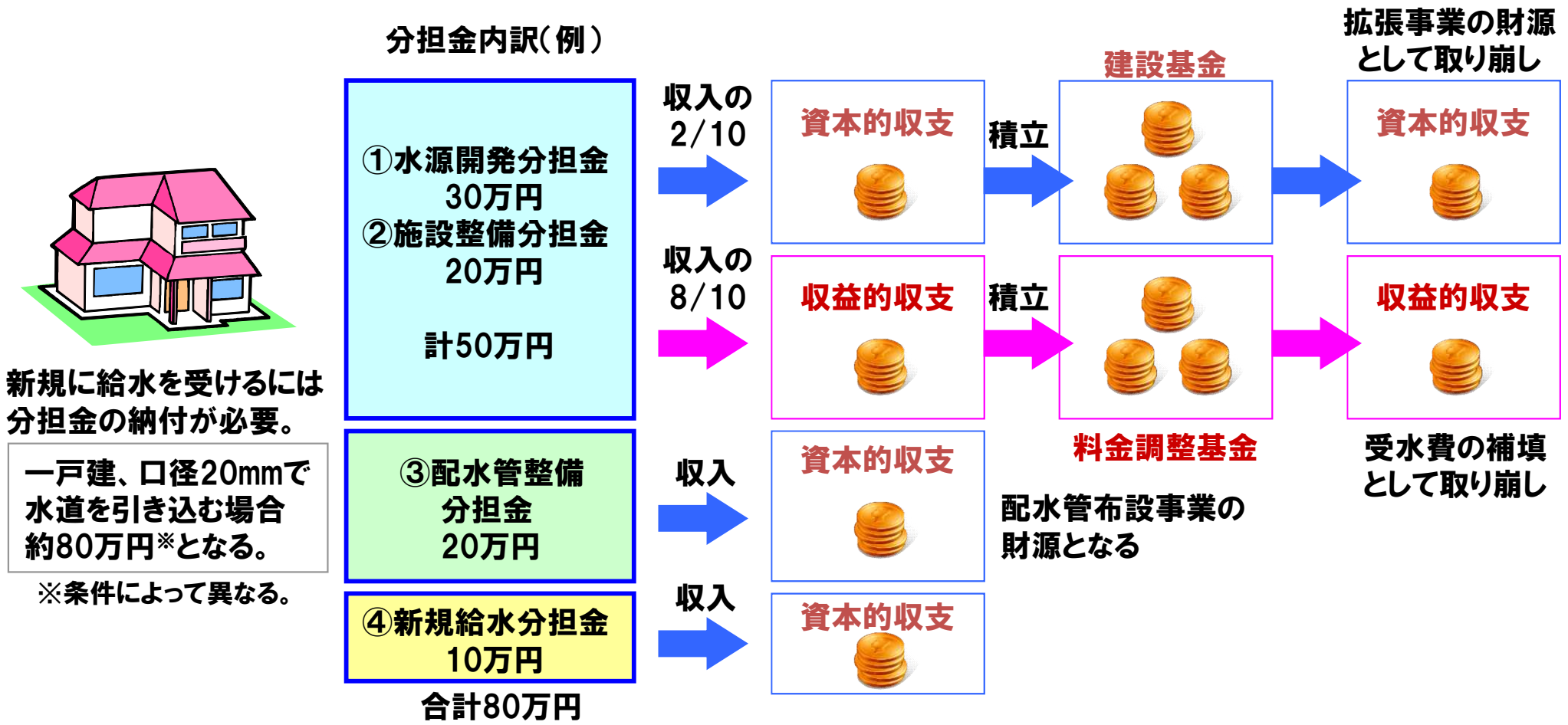
- 京都府内でみて、水道料金（下水道使用料含まず）は3番目に低い。
- 下水道使用料を含めても京都府内で最も低い。



5. 近年の経営状況

分担金制度

- 分担金は、急速に進む宅地開発に対し、水源確保や施設増強に充てる財源として、従来からの利用者と新規利用者との間で負担の公平性を図るため、水道を新規利用する際、お支払いいただいています。



出典：京田辺市水道ビジョン（R4.3一部改訂版）p29 図3.20 分担金制度の概要
京田辺市水道事業経営戦略（R2.3）p11 図2.14分担金制度の例

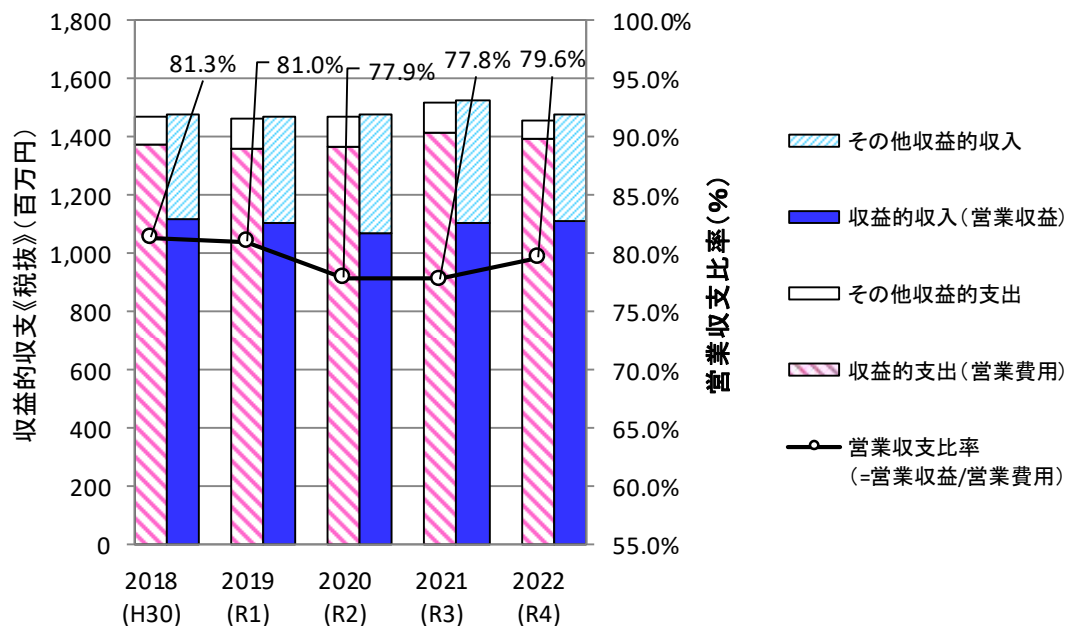


5. 近年の経営状況

過去5年間の実績（収益的収支）

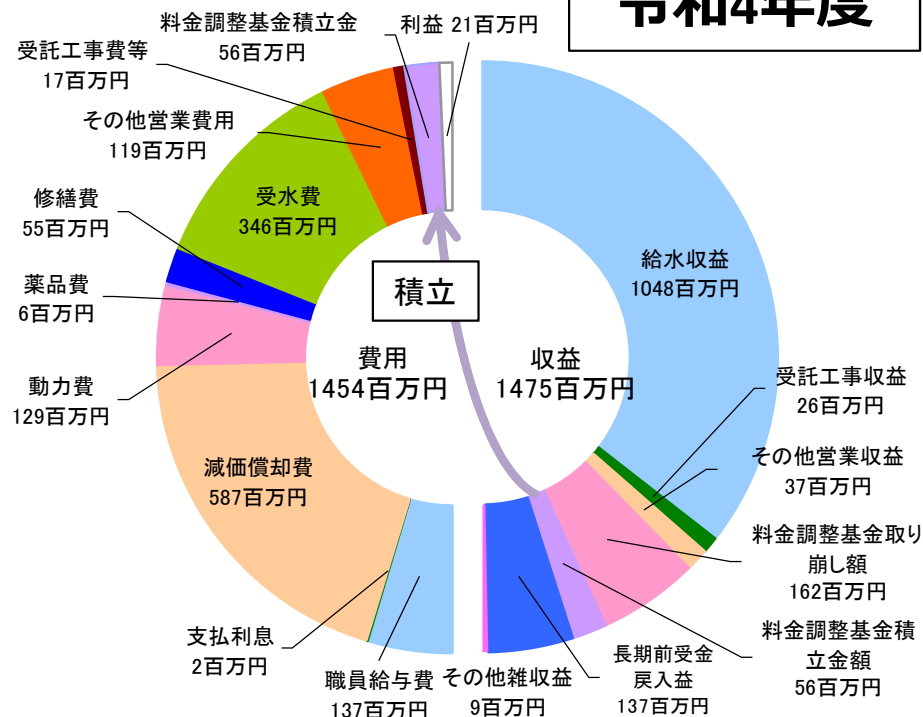
- 給水収益（全体の71%）が主な収入である。
- 企業債の借り入れがほとんどないので、支払利息（利息の返済額）は少ない。
- 支出においては減価償却費と受水費で支出全体の64%を占める。
- 営業収支比率は100%未満であり、不足分を料金調整基金から取り崩している。
- 近年5か年で経営戦略策定以降収益的収支で赤字は発生していない。

実績の推移



※営業収支比率 = 営業収益 ÷ 営業費用 × 100

令和4年度



出典：京田辺市水道ビジョン（R4.3一部改訂版）p27 図3.17 収益的収支と資本的収支（令和元年度）

5. 近年の経営状況

過去5年間の実績（収益的収支）

（水道施設・管路の維持・補修や水道事業の日々の活動で発生する収入と支出）

単位：千円（税抜き）

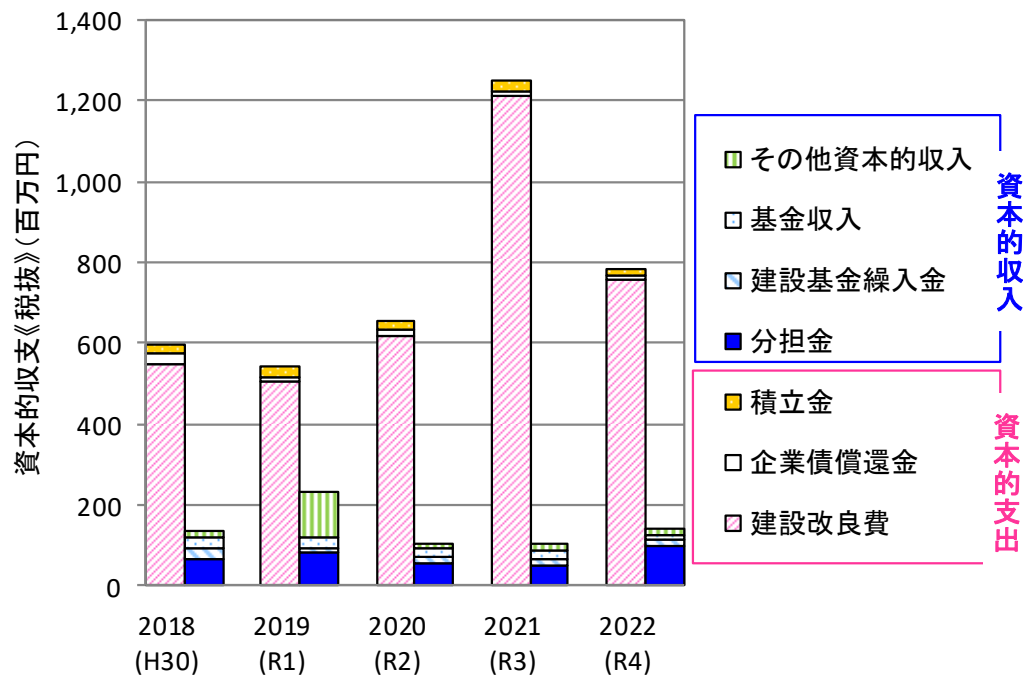
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
収益	営業収益	1,116,853	1,102,143	1,066,952	1,101,673	1,111,363
	給水収益	1,052,430	1,041,361	1,007,836	1,050,710	1,048,402
	その他営業収益	64,423	60,782	59,116	50,963	62,961
	営業外収益	362,614	369,020	411,393	424,294	363,415
	料金調整基金取り崩し額	129,255	131,641	113,692	178,841	161,708
	料金調整基金積立金額	95,244	99,087	96,670	95,189	55,708
	長期前受金戻入	130,641	130,424	134,286	134,713	136,595
	その他営業外収益	7,474	7,868	66,745	15,551	9,404
	特別利益	133	106	64	21	20
	収益合計	1,479,600	1,471,269	1,478,409	1,525,988	1,474,798
費用	営業費用	1,372,988	1,361,028	1,369,559	1,416,595	1,395,544
	職員給与費	206,281	192,735	193,001	164,553	136,702
	動力費	105,331	105,032	100,813	98,508	128,844
	修繕費	50,618	43,831	44,065	46,876	55,264
	受水費	359,645	365,436	356,548	406,256	346,277
	減価償却費	513,920	518,817	535,018	562,829	587,297
	その他営業費用	137,193	135,177	140,114	137,573	141,160
	営業外費用	98,736	101,795	99,129	97,393	57,652
	支払利息	3,491	2,708	2,459	2,204	1,944
	料金調整基金積立金等	95,245	99,087	96,670	95,189	55,708
	特別損失	667	524	927	2,119	803
	費用合計	1,472,391	1,463,347	1,469,615	1,516,107	1,453,999
	収支	7,209	7,922	8,794	9,881	20,799

5. 近年の経営状況

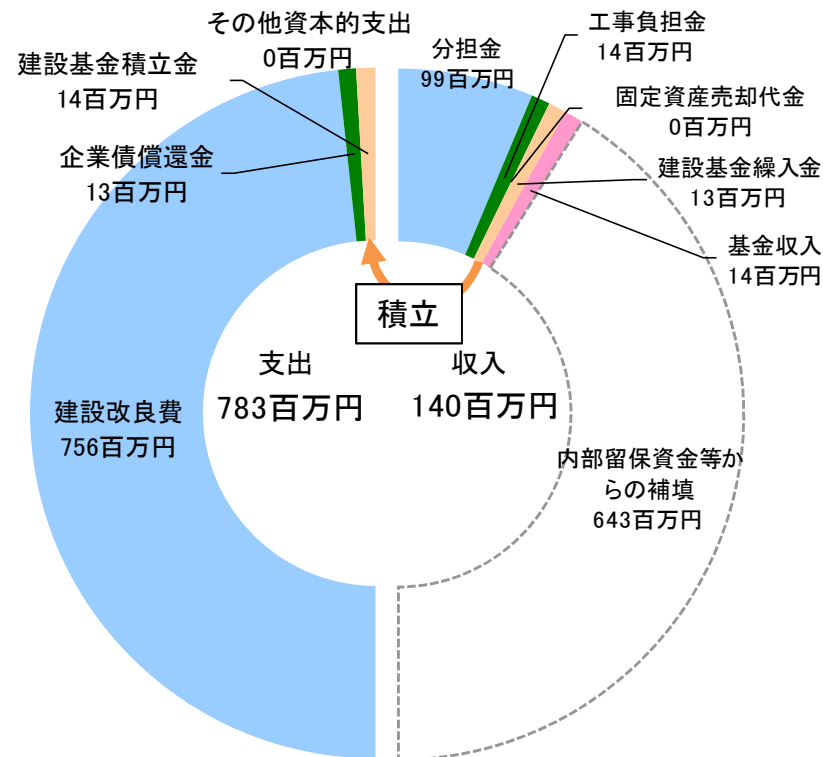
過去5年間の実績（資本的収支）

- 企業債の借入れは近年ない。
- 分担金、建設基金繰入金が主な財源である。
- 資本的収支で不足する額は、内部留保資金等から補填している。
- 支出は建設改良費がほとんどであり、企業債償還金（元金の返済額）も少ない。

実績の推移



令和4年度



出典：京田辺市水道ビジョン（R4.3一部改訂版）p27 図3.17 収益的収支と資本的収支（令和元年度）

5. 近年の経営状況

過去5年間の実績（資本的収支）

（水道施設や管路の整備・改良など投資活動で発生する収入と支出）

単位：千円（税抜き）

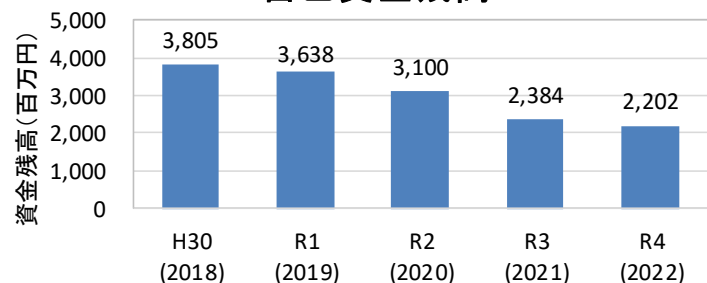
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
収入	分担金	67,855	80,455	56,396	51,461	99,042
	工事負担金	14,233	113,985	7,691	15,327	13,776
	固定資産売却代金	2,419	1,614	0	0	4
	建設基金繰入金	26,915	12,416	12,666	12,921	13,180
	基金収入	23,811	24,772	24,166	23,797	13,927
	収入合計	135,233	233,242	100,919	103,506	139,929
支出	建設改良費	841,133	752,754	1,003,304	1,212,576	756,150
	うち職員給与費	57,642	64,878	64,328	93,658	103,553
	企業債償還金	26,915	12,416	12,666	12,921	13,180
	建設基金積立金	23,811	24,772	24,166	23,797	13,927
	支出合計	891,859	789,942	1,040,136	1,249,294	783,257
収 支	△ 756,626	△ 556,700	△ 939,217	△ 1,145,788	△ 643,328	

5. 近年の経営状況

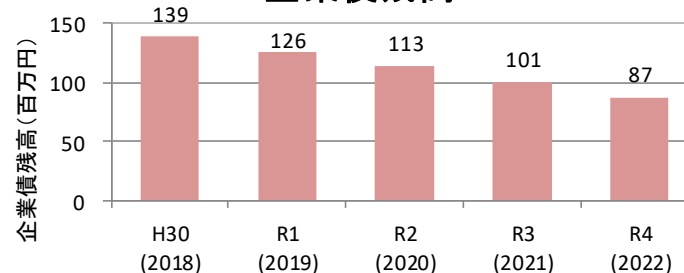
自己資金（現金・預金残高）・企業債（借入金）

- 企業債を借りずに投資を行っているため、自己資金残高と企業債残高はともに2018（平成30）年度以降減少している。
- 建設基金は2021（令和3）年度に取り崩しの範囲を拡大し、拡張した施設の更新事業に対して取り崩せるようになった。
- 建設基金は開発等の減少により積立額が減少しているが、積立額が取り崩し額より大きいいため残高が増加している。

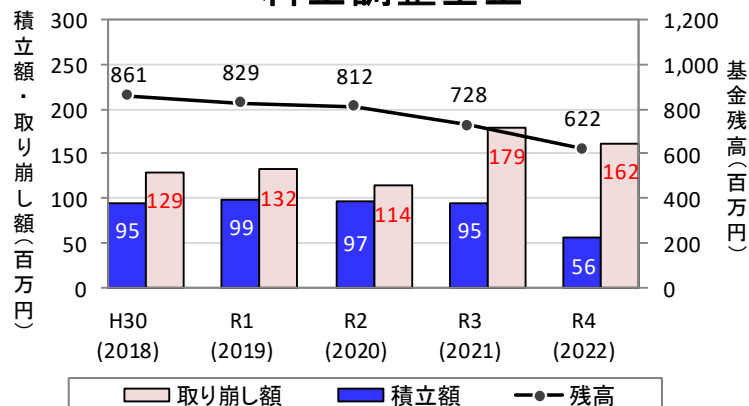
自己資金残高



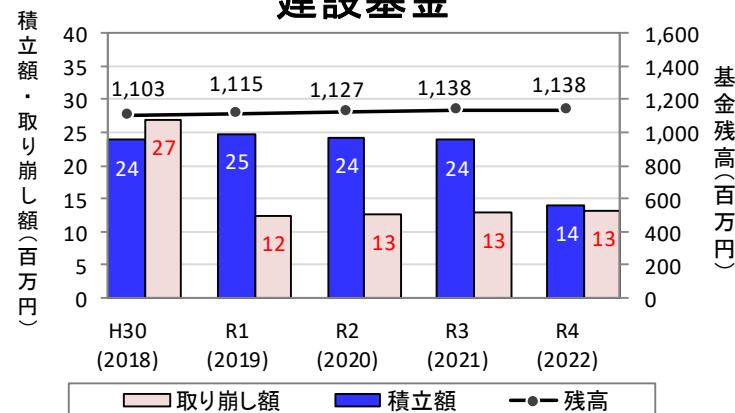
企業債残高



料金調整基金



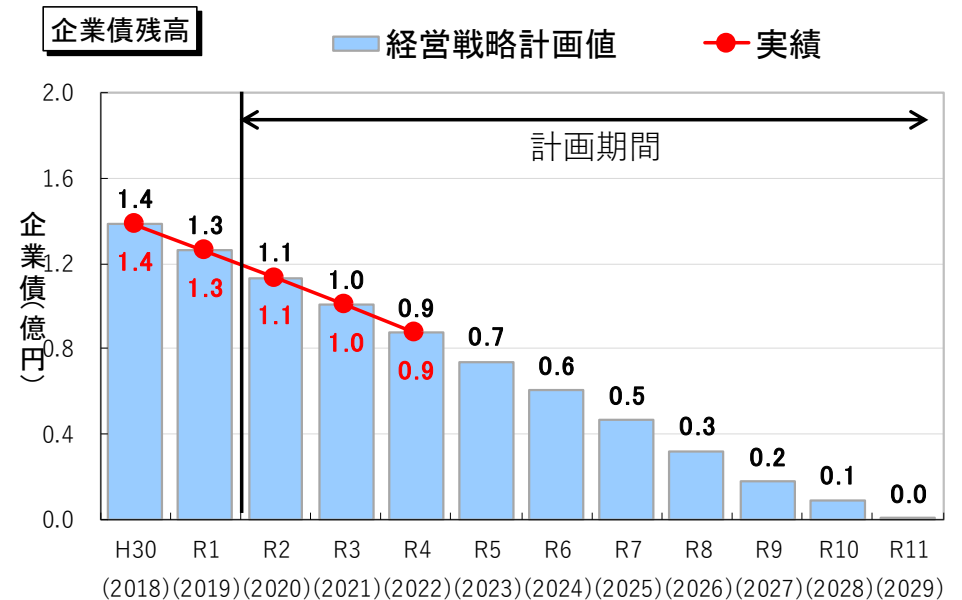
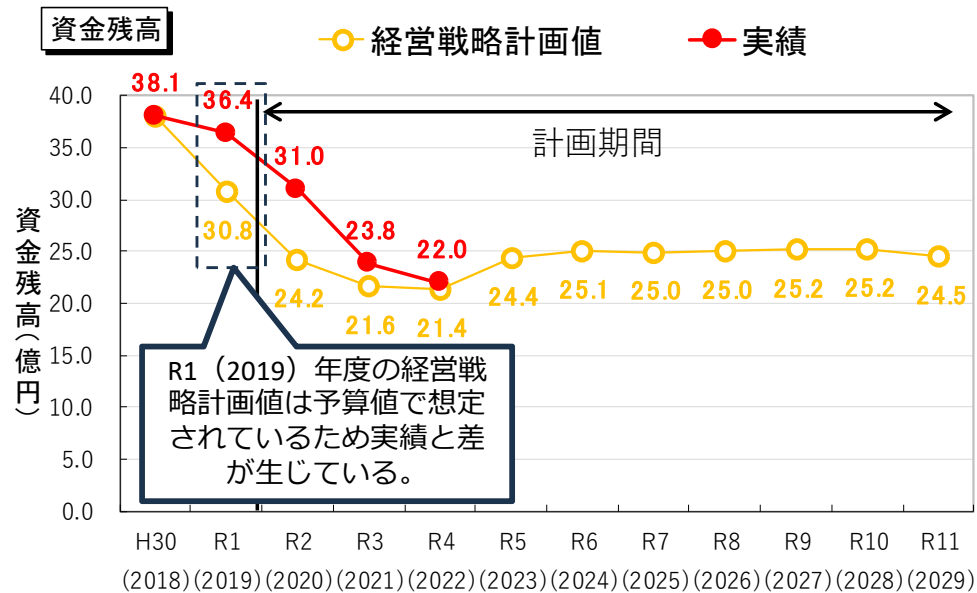
建設基金



5. 近年の経営状況

経営戦略計画値との比較（資金残高と企業債残高）

- 自己資金の残高は経営戦略の計画値を上回っている。
- 企業債は計画値通り償還が進んでおり、企業債残高は経営戦略で想定したとおりに減少している。
- 自己資金の残高および企業債残高については概ね経営戦略通りとなっており、大きな問題はない。



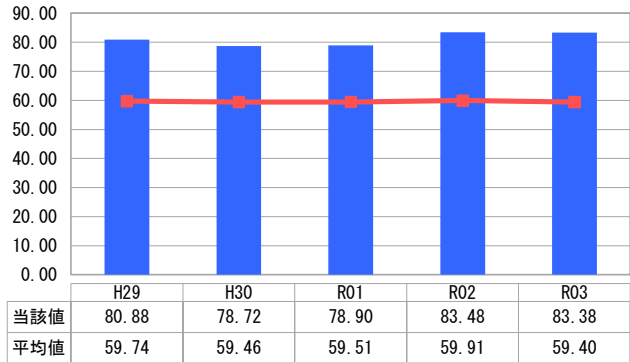
出典：京田辺市水道事業経営戦略（R2.3）p50 図5.8財政シミュレーション結果（収益的収支）、p52図5.10財政シミュレーション結果（資金残高）

5. 近年の経営状況

施設の効率性

⑦施設利用率(%)

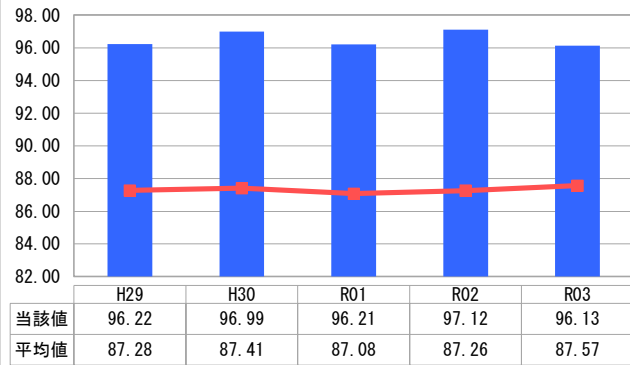
[60.29]



配水能力に対する配水量の割合であり、施設の利用状況を判断する指標

⑧有収率(%)

[90.12]



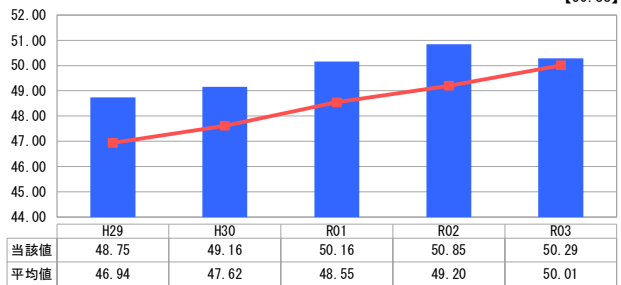
施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標

2021（令和3）年度のペースでは、全管路の更新に172年を要する

老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

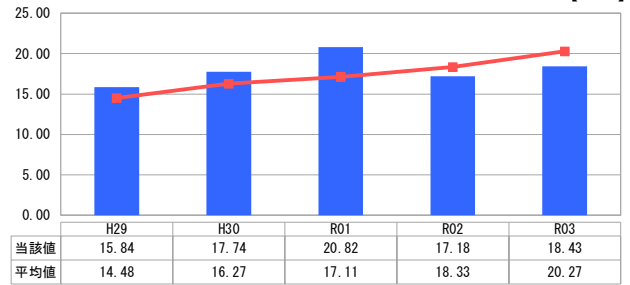
[50.88]



償却資産における減価償却の進み具合であり、資産の老朽化度合いを示す指標

②管路経年化率(%)

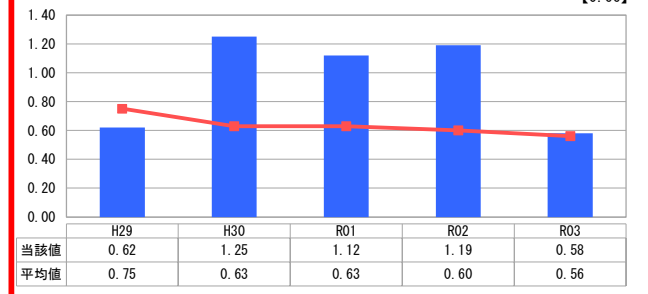
[22.30]



法定耐用年数(40年)を超えた管路延長の割合で、管路の老朽化度合いを示す指標

③管路更新率(%)

[0.66]



当該年度に更新した管路延長の割合で、管路の更新ペースを示す指標

※実績は、公表されている最新値をもとに2021（令和3）年度まで記載している。

5. 近年の経営状況

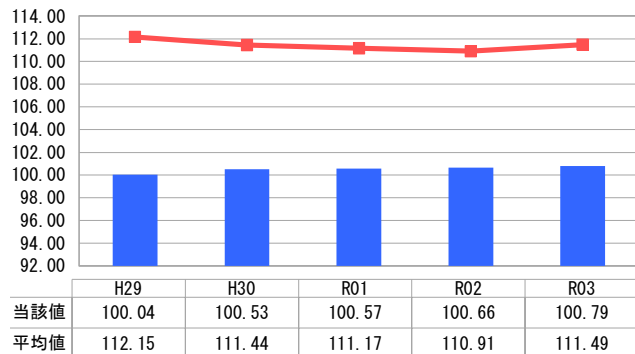
水道事業

経営の健全性

現状は問題ないが、今後の収益性の低下に注意

①経常収支比率(%)

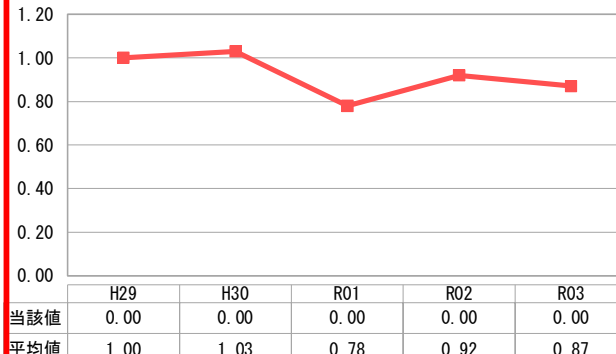
【111.39】



給水収益や基金の繰り入れなどの収益によって費用をどの程度まかなえているかを表す指標。100%以上なら収益>費用

②累積欠損金比率(%)

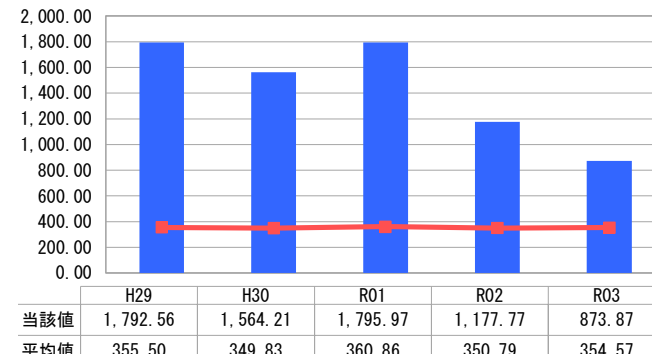
【1.30】



営業活動により生じた損失が複数年にわたって累積しているかを確認する指標

③流動比率(%)

【261.51】



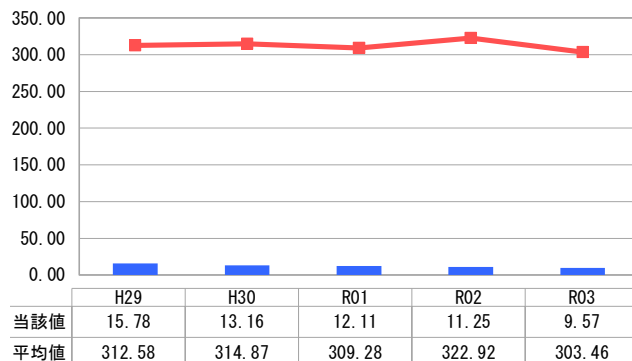
短期的な債務(1年以内)に対する支払能力を表す指標。100%以上なら問題なし

経営の効率性

基金の取り崩しで不足額を補っており、現状は問題ないが今後の水需要減少で悪化するおそれあり

④企業債残高対給水収益比率(%)

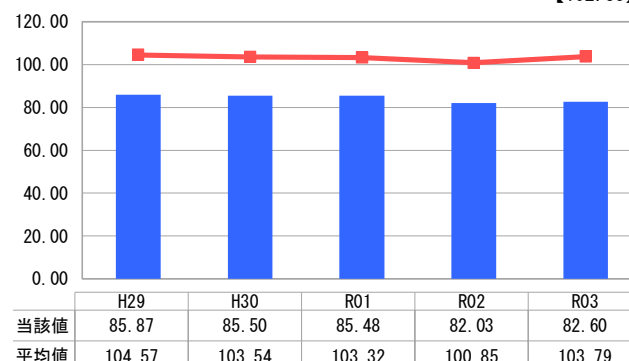
【265.16】



給水収益に対する企業債残高の規模を表す指標

⑤料金回収率(%)

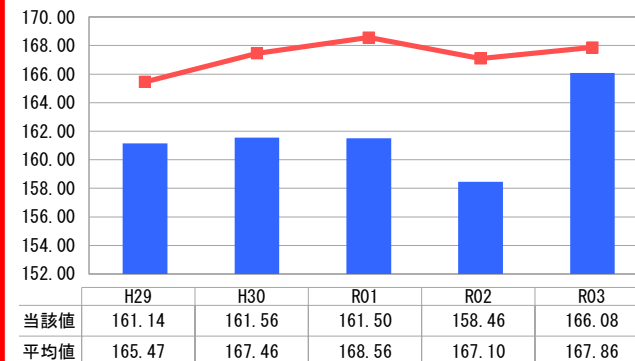
【102.35】



給水に係る費用が、どの程度給水収益でまかなえているかを表す指標

⑥給水原価(円)

【167.74】



有収水量1m³当たりどれだけの費用がかかっているかを表す指標

※実績は、公表されている最新値をもとに2021(令和3)年度まで記載している。

①水需要動向などを踏まえた今後の水需要と給水収益

まとめ ▶ 人口及び給水量の計画値と近年の動向が乖離している。

今後の進め方 ▶ 以下の留意事項を踏まえて水需要予測の見直しを行い、**第三回経営審議会**でその内容について報告し、議論する。

留意事項 ▶ 京田辺市の推計人口が見直される可能性がある。

▶ 2020（令和2）年度以降の水量実績は新型コロナウイルス蔓延による影響を受けている可能性がある。

▶ 開発に伴って水需要が増加する可能性が高い。

②施策進捗状況などを踏まえた今後の事業量（投資）

まとめ ▶ 実施時期が想定と変わった事業があるため、投資額は計画値を下回っている。

▶ 実施方策については概ね計画通り取り組んでいる。

今後の進め方 ▶ 更新需要（今後の事業量）の見直しを行い、**第三回経営審議会**でその内容について報告し、議論する。

▶ ビジョンの施策の見直しについては**第四回経営審議会**でその内容について報告し、議論する。

③ ①、②にもとづいた経営の見通し

- まとめ
- 収益的収支で赤字が発生していないことと資金残高や企業債残高の推移が概ね経営戦略通りとなっていることから経営に関する大きな問題はないが、今後の水需要の減少により経営の健全性や効率が悪くなる可能性がある。
- 今後の進め方
- 今後の財政の見通しを行い、**第四回経営審議会**でその内容について報告し、議論する。